平成 29 年度

上宮太子中学校・高等学校

学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び総括
3. 各部署の中間評価
4. 授業アンケート分析
5. 学校評価の報告書
6. 学校関係者評価委員会の報告書

上宮太子中学校・高等学校　学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日　制定

(趣旨)
第 1 条　この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)
第 2 条　学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)
第 3 条　学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条　自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。
2　学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)
第 5 条　学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、学校評価主任、学校評価担当を委員とする学校評価委員会を設置する。
2　学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価主任は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)
第 6 条　学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。
2　自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)
第 7 条　学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は 5 名程度とする。
(1)　保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
(2)　学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
(3)　その他、必要に応じて学校が選出する委員
2　委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
3　学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。
4　学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。
5　学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。
6　学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。
7　委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)
第 8 条　学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)
第 9 条　学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。
(事務の所管)
第 10 条　この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附則
この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

平成 29 年度
学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子中学校・高等学校
学校評価委員会

部署名	高校教務部	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

（１）教務運営システムの整備・効率化

（２）有効な指導体系の継続検討

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
（１）教務運営システムの整備・効率化		
①行事の着実な実施と改良 ※入念な準備，実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ	B	B
②教務各係の業務内容と資料の点検・整備	B	B
③教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知	B	B
④各部署との連携強化による業務効率化	D	D
（２）有効な指導体系の継続検討		
⑤カリキュラム改良の検討	D	D
⑥シラバス改良の検討	C	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

日々の業務に追われてしまい、なかなか計画通りに進めることができなかった。その中で各係の業務内容を明確にすることができた。来年度は業務内容を明確にできたことにより、教務部員が業務に対しての共通認識を持ち、よりスムーズに業務を進められるものと思われる。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

①学校目標に基づいて、カリキュラム・シラバスの改善検討を実施する。

②教務内規全般の継続的な検討。

③教職員の各種届出の管理、先生方の出勤簿への捺印の徹底

④入試業務における各部署との連携強化

⑤生徒を主体とした清掃活動の実施

⑥教員の美化意識の向上

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	中学校 教務部	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成２９年度の重点目標（４月末）

（１）教務運営システムの整備・効率化
（２）有効な指導体系の継続検討
（３）上宮学園中学校との連携検討

２．平成２９年度の取り組み内容（４月末 年度末評価は３学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
（１）教務運営システムの整備・効率化		
①行事の着実な実施と改良	B	B
※入念な準備，実施要項作成		
※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ		
②中学教務各係の業務内容と資料の点検・整備	B	B
③教務内規の精査・改定・整備	B	B
※確定規定の明文化と職員周知		
④各部署との連携強化による業務効率化	D	D
（２）有効な指導体系の継続検討		
⑤カリキュラム改良の検討	D	D
⑥シラバス改良の検討	D	D
（３）上宮学園中学校との連携検討		
⑦校外学習・球技大会等連携行事の検討	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

○項目(１)教務運営システムの整備・効率化について、

①行事の着実な実施と改良推進

②中学教務資料の点検・整備推進

③教務内規の精査・改定推進

○項目(３)上宮学園中学校との連携検討について、

⑦校外学習・スキー実習等連携行事及び内部進学規定の検討推進

○項目(２)有効な指導体系の継続検討について、

検討推進できず。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

○項目(２)有効な指導体系の継続検討について、

⑤カリキュラム改良の検討

⑥シラバス改良の検討

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	生　徒　指　導　部	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

生徒相談　悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。
　　１教職員への啓発・発信　　２スクールカウンセラーと教職員との連携
生徒会　　１生徒会活動の活性化　　２委員会活動の活性化
　　３広報活動　　４生徒会活動の研究
生活指導　１生徒指導の推進と問題行動の予防強化　２道徳意識，規範意識の向上
　　３いじめ・不登校，配慮を要する生徒への取り組み　４生徒の愛校心向上

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
生徒相談		
１．研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。	B	B
２．カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整を行う。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握する。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。	B	A
生徒会		
１．生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり （体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等）	B	C
２．委員会活動の活性化	B	B
３．広報活動（上宮太子ニュース・説明会への協力・地域行事への参加）	A	A
４．クラブ生を主体とした学校の活性化	C	C
生活指導		
１．全教員による一律指導を目指し、生徒指導実践内容を改訂・明確化 大阪私学生徒指導連盟の活動で得た情報を校内に生かす取り組みの実施	B	B
２．始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に対して指導，説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施 生徒自治会との連携	A	B
３．「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校，配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	B	B
４．「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映	B	B
〔そ の 他〕 高校新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を高１学年に提案、実施	A	A

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

生徒相談

今年度スクールカウンセラーが変わったが、今まで同様にスムーズに対応できた。またカウンセリングの部屋も同じ棟にあるため動きがよく、この状態のまま次年度につなげていきたい。

生徒会

・学校行事は生徒に主体性を持たせて取り組めたが、事前準備や、他の生徒との協議という点では受け身になりがちであった。
・委員会によりばらつきがあるが、大半の委員会で勢力的に活動した。
・ふれあい TAISHI・学校説明会に参加。（時代行列は中止のため不参加）
・クラブ代表生徒会議は開けなかった。

生活指導

各学年の担任団・学年生指担当先生を中心に、常日頃から生徒心得遵守の徹底を実施していただき、多くの生徒が実践してくれていたが、数件の生指事象が発生するに至った。特に、2 学期後半から 3 学期に発生し、生徒が気を緩めやすい時期には今後一層の注意をはらう必要がある。（校内での危険行為（花火）・喫煙・万引き・窃盗）
どれも大きな問題につながる行為で、こうしたことを軽い気持ちで行わないよう、教員全体で生徒への注意喚起を行う。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

生徒相談

スクールカウンセラーへの相談の多い「不登校」「発達障がい」については、継続してスクールカウンセラーとともに検討・研究していきたい。
その他の内容については、現状のままさらに充実させたい。

生徒会

・学校行事の運営をより主体的に。
・委員会活動の活性化
・クラブ代表会議などで生徒から学校を盛り上げる
・変わらぬ広報活動

生活指導

尚一層の生徒心得の遵守指導
生徒会と協力しての活動（あいさつ運動など）
生徒（会）からの意見の検討・実践
防犯意識を高めるための教室実施

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	進路指導部	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

生徒の希望進路実現のため、敢為邁往の精神で次の各項目に取り組む
- Ⅰ．学力向上
- Ⅱ．戦略的改革

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
Ⅰ．学力向上		
ａ．読書指導推進	C	D
ｂ．家庭学習推進	B	C
ｃ．模試の事前・事後指導、結果分析	B	C
Ⅱ．戦略的改革		
ｄ．生産性の高い進路指導体制構築	C	C
ｅ．大学入試制度改革の研究と啓蒙	C	C
ｆ．アクティブラーニングの研究と啓蒙	C	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

Ⅰ．ａ．読書指導推進
読書する生徒が増えていると感じられない。

ｂ．家庭学習推進
スタディサプリの課題提出はある程度定着しているものの、しっかりと視聴させるための工夫が必要である。

ｃ．模試の事前・事後指導、結果分析
担任および教科担当者は事前・事後指導を行っている。また、分析の結果は担任会や教科会において、可能な範囲で行っているが、やや少ない。

Ⅱ．ｄ．生産性の高い進路指導体制構築
業務の分担と協力はある程度できているが、不十分である。業務見直しのため業務マニュアルの作成が急務である。

ｅ．大学入試制度改革の研究と啓蒙
最低限必要なことは進路指導部で共有できている。学年や教科に対して、より一層の周知が必要である。

ｆ．アクティブラーニングの研究と啓蒙
国語・英語・理科の先生に、外部セミナーに参加していただいた。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

① 中学に関しては、基礎学力の定着と向上に取り組む。さらに、「思考力」「判断力」「表現力」を育み、「主体性」を引き出したい。

② 高等学校に関しては、さらなる「進学実績の向上」に取り組む。教科・学年との連携を深め、生徒の学力向上に努める。

③ 生産性の高い進路指導体制を作る。教科・学年に対してリーダーシップを発揮し、全人教育を通して進学実績を向上させる。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	入試対策部	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

（１）高校入試における受験者数安定化のための活動
（２）上宮学園中学校の広報活動
（３）情報の収集・共有化
（４）今後に向けての対応策検討

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
（１）高校入試における受験者数安定化のための活動		
私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定させるための活動を強化する。		
①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。	A	A
②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。	B	B
③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。	A	B
（２）上宮学園中学校の広報活動		
平成３０年度入試より、上宮中学校と上宮太子中学校を統合し、上宮学園中学校として募集を行う。これまで培ってきた両校の教育内容を集中し、さらに発展させるためである。広報においても上宮と協力体制をとりながら、募集活動を展開していく。	B	B
（３）情報の収集・共有化		
受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。	B	B
（４）今後に向けての対応策検討		
少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討していく。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・高校入試における受験生は昨年より減少した。しかしながら、この少子化のさなか（特に南河内地域の減少は著しい。）、特進コースにおいては専願併願とも昨年とほぼ変わっていないのでよかったと思われる。減少が見られたのは、総合進学コースの併願に集中している。進学実績だけでない魅力を効果的に発信する必要がある。
・受験生のレベルが上がってきている。入試ラインが上がっている中で、減少が歩留まりしたのはよかった。
・高校入試のイベントは昨年並みの参加者数であった。公立中学校への広報活動を強化した成果であると思われる。
・上宮学園中の広報活動においては、上宮との連携が不可欠である。できる限り連携をとってきたが、まだまだできることは多いのではないか。引き続き連携を強化し、上宮、上宮太子で共同で募集活動を展開していく。
・学校全体への情報共有は満足いくものではなかった。発信、共有する仕組みが必要である。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・今年度の取り組みを継承しつつ、発展させていかなければならない。
・向こう４年間で大阪府下の受験生人口は、今年に比べて１割以上減少するデータがある。人口が減少しても安定的に受験生を確保できるよう魅力ある学校づくりを行うとともに、効果的な広報活動を強化していかなければならない。現代社会に即した広報ツールのＩＣＴ化、学校を知ってもらうための魅力的なイベントや受験生や保護者に直接訴えかける告知方法など、具体的かつ効果的な方策を練っていく必要がある。
・部署間の連携を強化し学校全体で様々な知恵を出し合わなければならない。教務、進路、生活指導など、あらゆる方面から魅力ある上宮太子をつくっていけるよう、入試対策部が得られる様々な情報を学内に提供する。会議のみならず、学内にあるＩＣＴツールを使って共有を図りたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
　A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
　B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
　C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
　D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	国　語　科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

１．　全体的な国語力の向上、トレーニング増強による読解力の向上
２．　各学年の学習指導計画をより充実させるための研究
３．　受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
４．　教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
１、　全体的な国語力の向上		
① 生徒の国語力に対する理解度・学習到達度の確認	B	B
② 生徒の学習定着をはかるための方策研究	B	B
③ 読解トレーニングと的確な解説による読解力向上への取り組み	B	B
④ 教科会での国語力向上についての意見交換	B	B
２、　各学年での学習指導内容の研究		
① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認。	B	B
② 特進コース		
→センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成	B	B
③ 総合進学コース		
→推薦入試への対応　小論文対策	B	A
→公募制推薦・一般入試に向けた対策　学習指導内容の改善	B	B
３、　受験対応力向上へ向けたアプローチ		
① 各学年における講習の充実	B	B
② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫	B	B
③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み	B	B
④ 国公立大学・難関私立大学の出題研究	B	B
４、　教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック		
① 予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加	B	B
→入試の現状把握、教員のスキルアップ		
②　教科への研修活動のフィードバック	C	C
→教科会での参加活動報告、または勉強会開催		
③「論理ｴﾝｼﾞﾝ講座」「記述講座」はじめ、教科内の教員による勉強会実施	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

概ね、目標としていた部分を達成しつつ、各学年の授業を展開していけたように思う。特に特進クラスにおいては、１・２年とも順調な結果を出しており、３年生においても昨年度より合格実績をあげた点から見ても、現代文・古文ともにつながる学習ステップを踏ませることができたと感じている。

転じて、総合進学コースにおいては、やはりまだまだ達成度や生徒のやる気の部分で、しっかりと彼らの意識の中に入り込めていない感がある。来年度以降、さらに低学年次でのトレーニングの意識を改め、最終的な結果につながるよう再びしっかりと取り組んでいきたい。古典分野でも、もっと地力を養成する部分を見直すべきである。来年度に関しても、今一度、しっかりと足下を固めつつ進めていきたい。

総じては、まだまだぬるま湯の中にいるような生徒が多く、勉強への意欲も危機感もまだまだ低い。一言で言うともったいない生徒が非常に多い。教員側のアプローチももっと変えていかなければならないと思う。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

新学習指導要領実施に向けた新しい授業スタイルの模索
・担当者だけでなく、教科からのバックアップも必要。また、授業見学などを通し、教員間での研修も必要。
総合進学コースの授業内容の改善、実力伸長への取り組み
・小テストの充実、授業の進め方の改善、授業の活性化
・トレーニング（問題演習）の取り入れ
特進コースの授業内容の改善、実力伸長への取り組み
・現代文分野での、論理エンジンを軸とした論理力向上へのプログラム強化
・古典分野での基礎力の徹底、反復演習の強化、大学入試問題の研究
不易流行の部分
・読書指導を通し、言葉に触れることの大切さ、楽しさを伝える。さらに、論理力や語彙力、表現力の向上にもつなげる。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	社会科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

(1)授業の厳正化と社会科の強化
(2)教科会の活性化
(3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。	A	B
②社会科の授業が好きになる工夫をする。	A	B
③中学においては、高校入試で３ヵ年の成績を上回る。	C	C
④高校においては、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす。	B	B
⑤授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。	B	A
⑥社会科に関する研修会などへの積極的な参加。	B	B
⑦高校３年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。	B	C
(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。	B	B
②授業見学会実施	C	C
③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。	B	C
(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。	B	B
②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

(1)①時間とともに、いい加減になっているクラスもあるようである。
②PowerPoint やデジタル教材を使用した授業が増えてきている。
③
④高２の日本史では、結果を残すことが出来た。その他は、一歩及ばなかった感じである。
⑤社会科平均は 89%であった。
⑥時間的な余裕がないためなかなか厳しい状況である。
⑦私立の産近甲龍以上の一般入試に向け毎年の課題である。

(2)①教科会は、可能な限り実施できた。
②実施出来なかった。
③個々の教員に任せきりの状況である。

(3)①問題構成を少し変更し、正誤問題を増やすなど、少し工夫をした。
②個々の教員に任せきりの状況である。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

高２特進コースの日本史では、かなり良い模試の結果がでた。他科目も負けないように来年度以降、授業の取り組みを考えていきたい。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	数学科	記入者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成２９年度の重点目標（4 月末）

１．授業の厳正化
２．数学力の向上
３．教科会の活性化
４．高校入試問題の研究と編集の効率化

２．平成２９年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
１．授業の厳正化		
・個々のより深い教材研究と教材の共有	B	B
・研究授業の実施	C	C
・各コースの特性を見据えた指導計画と実践	B	B
２．数学力の向上		
・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進	B	B
・各学年、目標偏差値をクリアーすることを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底	B	B
・個々の能力に応じた補習、講習の実施	B	B
・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元	B	B
・特進コースの国公立大合格率向上（最後まで目標を持って諦めさせない）	B	B
・総合進学コースの一般入試合格率向上（指定校・AO 入試に頼らず実力をつけさせる）	B	B
３．教科会の活性化		
・連絡の徹底と教科内の共通認識	C	C
・教科における情報交換と研修	C	C
４．高校入試問題の研究と入試編集の効率化		
・標準的な良問作成のための入試問題の研究	B	B
・入試問題作成時間の短縮および平等化	B	B
・編集委員全員の確認作業の徹底	B	B

＊遂行度…項目の進度状況　　達成度…項目の達成・評価状況
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

１．授業の厳正化
　各コースの特性を考慮した教材研究を行い，授業に反映させ，担当教員間での情報交換を行うことで，より良い教材を共有し授業を進めた。
　１分前の音楽で移動し、チャイムで合掌状態を作ることを心掛けた。

２．数学力の向上
　家庭学習・自主学習をきっちりやらせ，学習状況の把握に努めた。６月頃から夏期休暇にかけて、自覚を持って休日でも自ら学校に来て勉強する生徒が増えた。
　模試対策については、事前対策に力を入れ、やり直しをすることで、何がわかり、何がわかっていないのかを理解させた。

３．教科会の活性化
　できるだけ週１回の教科会は開き，情報交換と教科内の共通認識に努めた。

４．高校入試問題の研究と編集の効率化
　教科担当者全員が入試問題の原案を出し，良問の問題を作ることができた。
　編集に於いても，８月の下旬から始めたので余裕を持って進めることができたが、

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

１．授業の厳正化
　教科全体での取り組みを重視し，授業見学や入試問題の分析討論を行い，教科内での研修を深め、より良い授業を目指す。
２．数学力の向上
　個々には PC を使って工夫しながら授業を行ったり，試行錯誤しながらプリント作成しているが，教科全体で統一性を持って計画的に進めていかなければならない。
　特進コースは自覚をもって勉強するが、総合コースが補習メインになってしまいがちで、講習参加者を増やすことが大事。
３．教科会の活性化
　事務的な伝達だけに終わるのではなく，大学入試問題の研究や上記の１および２の実践に向けての検討ができるようにする。
４．高校入試問題の研究と編集の効率化
　教科担当者全員が入試問題案を提出した。編集に於いてはクラブや補講習などで全員が揃うことができないので，２部制にすることで効率よく進めることができた。
５．その他
　アクティブラーニングや ICT についても、研修を受け、学んだことを教科で検討し、導入していく必要がある。特に、新高１からは入試制度が変わるので、数学としてどのような力が必要なのかを見極め、授業に取り入れることが必要である。

部署名	理　　科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の２つを重点目標とする。
① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①　指導力を向上し、授業内容を充実する		
a　実験や観察を多く取り入れ（特に中１）、興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導法を教科内で共有する。	B	B
b　高校の学習内容のうち、中学校で実施可能な内容について、さらに研究を進める。	C	C
c　可能な限り多くの理科教員が研究授業を実施し、これをもとにして、教科会で意見交流を行う。	A	B
d　進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行い、教科内で情報を共有する方法を研究する。	C	C
e　ＩＣＴを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。	B	B
②　大学入試に対応できる学力をつけさせる		
f　６年間または３年間の補講習計画を立案する。また、生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。	C	C
g　「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。	A	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 指導力を向上し、授業内容を充実する

d 他教科と比べて、模試の結果がおもわしくない。個人個人での研究はできているが、教科としてのレベルアップにつながっていない。互いの情報交換と共有を進めたい。

e 教員によって進み具合が異なっている。教科として統一して推進できるように努めたい。

② 大学入試に対応できる学力をつけさせる

f 高 2 までは英語や数学を優先して理科に時間をかけていない、または、時間をかける余裕が無い生徒が多いようである。その実情に合わせて効率よく成績を向上できるような方法を考えていかなければならない。

g 形骸化してきている傾向にある。復習の重要性をもっと徹底して教えていきたい。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

次年度も引き続き学力向上を目指して教科として取り組みたい。毎年目標としながら進まない項目があるので、一歩でも前進できるように精力的に取り組んでいきたい。特に、大学入試結果向上に理科として貢献できるように、努力を積み重ねなければならない。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	英語科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

１年間で総合進学は進研模試で２ポイント、特進は４ポイント UP

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①英語学力の向上		
・予習を確認するためのノートチェックを週に１回以上 （特進は毎時間実施）	A	A
・１セクション後に小テスト実施による復習の定着 （特進は毎時間実施）	A	B
・授業中の音読指導	A	B
・辞書と参考書の積極活用	A	A
・英検受験の奨励 （特進は全員２級取得を目標に）	A	B
・英語圏で使われている教材の多読（中学校） （オックスフォード・リーディング・ツリーを使用）	A	A
②成果に繋がる指導法の研究		
・教員間の授業を積極的に見学	D	D
・校外の研修会に参加	B	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

①英語学力の向上
（１）ノートチェック
⇒総合進学コース・特進コース共に達成することができた。
（２）小テスト実施
⇒特進はほぼ毎回、総合進学は単元ごとに小テストを実施している。
（３）授業中の音読指導
⇒呼びかけは積極的に行っているが、声が小さいことが多い。
（４）辞書と参考書の積極活用
⇒授業中に辞書指導を行い、ほぼ毎回の授業で使用している。
（５）英検受験の奨励
⇒担任と協力をして奨励し、講習なども積極的に行っている。
（６）英語圏で使われている教材の多読（中学校）
⇒英語演習の授業と総合学習の時間で外国語の教材を使用している。
②成果に繋がる指導法の研究
（１）教員間の授業を積極的に見学
⇒添削や授業準備などで空き時間を取られ、ほとんど余裕がない。
（２）校外の研修会に参加
⇒年に数回参加し研修を行っているが、まだまだ不十分である。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

〇総合進学コース
年度当初と比べてノートチェック・小テストの回数を増やしており、その成果が少しずつではあるがでてきているように感じる。今後もこの流れを続け、英語教育に力を入れて行き、進学実績に貢献できるよう努力していきたい。
英語検定試験に積極的に参加をさせ、卒業時までに準２級を取れるよう目指したい。

〇特進コース
ノートチェック・小テストはほぼ毎回実施しており、かなりの負荷を与えている。今後も他教科と協力した上でこの流れを続け、早期に英語の実力をつけさせたい。
英語検定試験に積極的に参加をさせ、卒業時までに２級を取れるように目指したい。

〇中学
総合学習の時間に英語圏の教材を使用し、教科書では学び辛い海外の文化や習慣に興味を持たせていく。また、通常の授業に加え、スペリングコンテストやスピーキングテストを通じて、実用的な英語の運用能力を育成していきたい。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	保健体育科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成２９年度の重点目標（4月末）

集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。

各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。

２．平成２９年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
時間を守る 　授業開始時間に遅れない	C	B
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 　挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B	B
服装を正す 　忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	B
各種目の技術習得 　個人技能と集団技能	C	B
運動することの必要性、大切さ 　生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	B	B
各種目のルールの理解 　ゲームの運営・ルール習得	B	B
ＩＣＴの導入 　デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践	C	C
心肺蘇生法の習得 　胸骨圧迫・AED使用方法	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成２９年度の成果と課題（3 学期終業式）

全体的にみると生徒の体力、運動能力が低下していると毎年感じるが、運動への意欲や健康との関連性は個人ごとの違いはあるが意識している生徒はおります。
運動部員は普段から運動しているが、それ以外の生徒は、積極的に運動しているものは比較的少ないように感じる。自身の健康と運動の関連性を体育の授業を通じ、また保健の授業などを通じ生徒に伝え、健康で活力のある、精神的にも安定した生活ができるよう引き続き教育していきたいと思います。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

生涯を通じた健康、体育との関連性を生徒たちに理解させる。

更なる時間管理、集団行動の必要性を徹底させ、学校全体にも意識付けさせていく

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	芸術科	記入者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

１．表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
２．評価、評定の方法について協議する。
３．行事への協力、取り組み。

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
１．表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。		
①表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。	A	B
・音楽　演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術　絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道　楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。		
②中学の音楽・美術においては、期末考査の実施について再検討する	A	B
２．評価、評定の方法について協議する。		
①平常点の割合の研究、分析等を行う。	A	B
３．行事への協力、取り組み。		
①聖徳書道展への協力。	A	A
②芸能鑑賞等、教務部との連携。	A	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・今年度、中学１年生においては音楽・美術の授業時数 45 時間が、うまく確認できた。次年度も計画的に進めていきたい。

・中学での音楽・美術は学期末での考査を実施した。しかし、１学年１クラスであり、平常点との関係もあるため、このまま実施するべきかどうか疑問を感じる。
そして考査をしたことにより、本当の音楽として、美術としての評価になっているかも再考する必要があると感じた。

・高校の音・美・書においては少人数での実施のため、基本学習がしっかり指導出来たと思う。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・芸術で何を学ばせるかを再度考えたい。そして評価について、どうあるべきか継続して考えていきたい。

・芸術を２年か３年で入れることは可能かどうか検討したい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	技術家庭科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
④ 教材の整備
⑤ 実践的授業の実施計画

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①技術・家庭科に対する学習意欲の向上		
・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。	C	B
（本物志向の展開：本物を見て触らせる）		
・未提出者等は催促し、必ず提出させる。	C	A
・他教科との連携を図った授業を展開する。	C	C
②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成		
・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。		
・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造	C	B
する能力を育成する。	B	B
③男女共同参画社会を意識した教育推進		
・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	B	A
④教材の整備		
・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見いだし展		
開できる問題解決的な教材を検討する。	B	C
・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内		
容の充実を図る。	B	A
⑤実践的授業の実施計画		
・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具		
の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。	C	C
・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。	A	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

＜　技術　＞
① 実習の計画をしていたが、計画の予定が大幅に遅れ、実習ができなかった。
② パソコン教室を活用し、ICT を意識した授業が展開でき、タイピング練習も進んだ。
③ 専門性を高め、教材研究を家庭科と共に深める必要がある。関連事項などは積極的に取り組み、連動性を持ちたい。

＜　中学家庭　＞
① 例年より実習のレベルアップを図ったが、計画時間内でほぼ終えることができた。
② 書がカメラを利用したプロジェクターによる授業を取り入れた。学習の浸透がある者とそうでない者はいるが、目新しさに生徒たちは興味を持って取り組んでいた。

＜　高校家庭　＞
① 総合進学、特進関係なく学習意欲が高く、平常点も含め考査の点数が高くなった。生活への興味関心、自立を家庭科からもアプローチしていきたい。
② 授業が深めていけるよう教科書の内容などを精査していきたい。また、ICT 教育を進めていけるよう率先して研究していきたい。
③ 授業が単調にならないよう、教材を見直していきたい。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

- 情報教育の推進を図る。
  プロジェクターやビューボードを活用した授業を目指す。

- 授業研究を深め、教材を精査する。
  より深めた学習を追求する。

- 実習計画を見直し、実習課題を速やかに実施できるようにすすめる。
  綿密な計画を立て、補習が極力ない指導をする。

- 他教科との連携を図り、資料などの収集をする。
  勉強会などの計画を立て実行したい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
　A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
　B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
　C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
　D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	情報科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

① 授業計画の再検討
② PC 教室の活用の促進
③ 大学入試制度改革に関する情報収集

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 授業計画の再検討		
・ 新課程における年間指導計画の再検討	B	C
・ 効果的な実習内容の検討	B	B
・ 座学で扱う内容についての再検討	B	B
② PC 教室の活用の促進		
・ 他教科における PC 教室の活用	B	B
・ 生徒用 PC の整備	B	B
・ 放課後等での PC 教室の開放	C	C
③ 大学入試制度改革に関する情報収集		
・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集	B	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 授業計画の再検討

前年度と比較して、全体的な流れは変化ないが、授業で扱う内容ごとのより適切な実習課題および授業の進め方は、授業担当者同士で日々検討しあい、よりよい形で生徒に伝達できた。今後も教員同士の意見交換や検討を欠かさず、内容の探求に努める。

② PC 教室の活用の促進

他教科の PC 教室利用状況は、今年度で特に増えることはなかったが、昨年利用された教科の先生方がよく利用されていた。放課後の PC 教室開放については、進路指導部やクラブ等が、それぞれ目的に応じて利用した。

③ 大学入試制度改革に関する情報収集

研修会や説明会に積極的に参加した。定まった情報が集まらず、今後も情報収集を継続していく。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・情報機器としての PC のよりよい活用につながる実習課題の作成

・情報や機器を扱う上での安全性の徹底

・PC 教室の、他教科におけるよりよい運営方法の検討

・大学入試導入に関する研修会への積極的参加

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	宗教科	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①校訓、学順の理解
②授業内容のさらなる充実
③宗教行事の理解と実践

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①校訓、学順の理解		
（１）授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。	B	B
（２）礼儀作法について学習、実践をする。	B	B
②授業内容のさらなる充実		
（１）授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。	B	C
（２）生徒の理解に適した授業を展開する。	B	B
③宗教行事の理解と実践		
（１）授業にて宗教行事の由来、意義を学習する。	B	B
（２）生徒参加による宗教行事の実践をする。	C	C

＊遂行度…項目の進度状況

達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

●中学生、高校生が同じ校舎で学習し、授業に行きやすくなった。

●黒板とホワイトボードのクラスが混在し、チョーク、キットパスの使い分けが必要であった。
●生徒の興味、関心を引き出す授業を展開する。

●生徒による宗教行事の参加はまだ実践できていない。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

●全教室がホワイトボードになるなら、プロジェクターを利用した授業内容、教材を検討していく。
●生徒の主体性、表現力を向上させるためにも、生徒参加型の授業、行事の企画を検討していく。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	中学１年	記入者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

・入学した 30 人の生徒、一人たりとも転退学者を出さないよう全力で取り組む。
・生活面では、独り善がりに陥ることなく他人を思いやる仲の良い友人関係を育てていく。
・学習面では、国語・数学・英語の基礎力養成を軸に、毎日の学習習慣をつける。

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
・生徒を注意深く見守り、少しの変化も見逃すことなく早期に問題を発見し素早く対処する。	A	A
・家庭との連携を密にし、学校への理解を深めていただき保護者、教師の双方が同じ考えのもと生徒を指導する。	B	B
・担任会・学年会の活性化 学年担当で情報を共有し、問題に対して迅速かつ綿密に対応できるよう取り組む。	B	B
・基本的生活習慣の確立、助け合える集団の育成 周りの友人に対して、嫌な思いを抱かせないように言動に注意させ、他人を思いやる人間性を身につけさせる。 また、いじめや嫌がらせのない、学校が楽しい場になるようなクラスを作らせる。	A	B
・学習習慣の確立及び学習意欲の向上 国語・数学・英語を中心に、常に各教科の宿題に取り組ませる習慣をつけ、家庭学習のリズムを作る。分からない所は教えあう習慣を定着させる。	B	B
・漢検・英検の合格率の向上 英語検定 5 級の全員合格を目指す。 漢字検定 4 級の全員合格を目指す。	B	B
・総合学習・学習定着タイムの有効活用 総合学習での英語力向上の取り組みを実施する。また、学習定着タイムにおいて、自学習の姿勢を身に付ける。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況　　達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・校内における中学校校舎の変更により、中学生全体が慣れない様子の中の新入生として、生徒がよく頑張りました。小学生の頃とは、授業体系も周りの雰囲気も大きく変化し、さらに担任の交代もあり、不安や不満も大きかったと思います。そんな中、こちらに合わせてくれたことに深く感謝しています。一見騒がしく感じる学年ですが、ここ一番では大きな力を発揮することができます。まだ幼さがあり、落ち着かないところもありますが、生徒自身が大切なことに気付く流れを工夫し、益々力を発揮できるように協力していきます。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・教室内の整理整頓に気を配り、気持ちよく学校生活できるように環境を整える。
・子供が発散できる場所や機会を確保して、物事へのやる気のアップにつなげる。
・繰り返し「命」の大切さを伝え、自分を大切にすること、人を大切にすること、物を大切にすることが実行できるようにする。
・お互いを理解し、それぞれが得意な分野で能力を発揮して、役割分担して協力できる集団作りを心がけ、一人一人が安心して学習活動に向かえるようにする。
・生徒自身が、「自分」を表現することを楽しみながら、伸びていくことができるように促していきたい。

部署名	中学２年	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

① 責任ある言動・行動。
② 確かな学力を身につける。
③ 基本的な生活習慣を身につける
④ 中弛みの防止。

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①　２年生になり後輩ができた今、１年生で許されていた言動や行動を反省し、責任のある行動を取ることを目指す。自分の発言・行動が周りにどのような影響を及ぼすのかしっかりと考えさせる。	B	B
②　早朝テストや各教科での小テストなどをくり返し、日々の小さい積み重ねがいかに大切であるかを再度経験させる。また、早朝読書を通じて、落ち着いて読書に取り組ませ、語句の使われ方や微妙な言い回しなどを身につける。また学力推移調査の偏差４３を目指す。	B	B
③　日々の学習の成功の裏には基本的な生活習慣が身についているかいないかに関わっていると思われる。もう一度、普段の生活を見直させる機会を設ける。	B	B
④　中弛みが多く発生する２年生においては、個々でしっかりした目標を定めさせ、迷いが出ないようにする。また、学習内容の難易度が最も高くなる学年であるので、中弛みが影響しないようにさせる。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

①　責任ある言動・行動について
２年生も終わり随分言動・行動は変わって来たように思う。ただ未だに素直にハイ・すいませんが言えない生徒もいるため、３年生でも指導は必要かと感じている。
②　早朝テストなどの取り組みについて
１年次に比べると当たり前ではあるが、事前学習を行っている生徒が増えた。ただ、中間報告でもあったが、早朝読書の時間が取れなくなってしまっているのが、現状となった。
③　遅刻などの生徒はほとんどいないので今後も引き続き指導していく。家庭学習の習慣をもう少しつけたいのが、学年としての思いである。実際伸びてきている気もするが、さらに今一歩の指導が必要である。
④　中弛みについては今のところ具体的には表面化していないが、居残り学習などを行ったため、一部の生徒においてはクラブ活動が全くできていない者もいるのが現状である。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

学習の強化を取り入れているつもりであるが、もう一歩である生徒が多いのも事実である。その反面、伸びた生徒もいる。この二極化している学力の生徒を共に授業を受けさせ、学力を押し上げる工夫を思考し、実行することが今後の課題といえる。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

部署名	中学３年	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

① 基本的な生活習慣の確立（遅刻欠席などをしない）
② 基本的な学力の確立（総合進学コース）
③ 実戦問題を取り入れ、応用力の向上を目指す
④ 補習・講習を効率的に活用する
⑤ よりよい人間関係を築く

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 遅刻・欠席が多いと学習にも大きく影響する。自ら基本的な生活習慣をしっかり身に付け、リズム感のある生活を送り、学力の向上を目指す。	Ａ	Ａ
② 総合進学コースの生徒の中には、基本的な事項が理解できていないことが多い。基本的な問題などを繰り返し取り組ませる。	Ｂ	Ｂ
③ 特進コースでは、まず学力推移調査での高得点を目指す。その為には実戦問題や課外学習に多く取り組ませる。	Ａ	Ａ
④ 放課後の時間を有効に活用し、学習環境を整える。ただし、生徒への過剰負担にならないように配慮する。	Ａ	Ａ
⑤ 中学最終学年であることを自覚し、相手の事をまず第一に考えることができる人柄を形成する。	Ａ	Ａ

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

最終学年ということもあり心身ともに大きく成長した。精神的にも安定しており、友人とうまく人間関係を築くことができるようになった。

基本的な生活習慣もしっかりと身に付き、2 年生まで欠席及び遅刻等が多かった生徒もその数は激減した。

また、他人のことを優先的に考えることができる生徒も多くなった。

ただ、学力においては十分とは言えず、勉強に対する考え方や取り組み方については高校生になるまでしっかり考え直す必要がある。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

3 番の項目にも記載したが、総合進学コースの生徒の今後の学力が心配である。

提出物や小テスト等への取り組みはしっかりできるため、後は学力を定着させる為の予習や復習を充実させるべく、その方法をもう一度確認する必要があると思う。

特進コースにおいては、成績上位者は学習の仕方は安定しているが、更に意識を高くもたせることが大切だと思う。成績下位者については、総合進学コースと同じく、勉強の仕方を根本的に見直させることが必要だと思う。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	高１学年	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画
(2)生徒・保護者・教員の意思疎通
(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立
(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	B	B
②メリハリのある行事企画と充実	B	B
③学年企画による校外学習の実施	D	D
④前向きな上宮祭への取り組み	A	A
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A
②効果的なＬＨＲや学年集会の実施	C	C
(3)①『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	B	B
②競争することを意識した学習への取り組み	B	B
③毎日早朝テストを実施することによる毎日の家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立	B	B
④定期考査前の補習の実施	A	A
※総合進学コースの目標		
①良き生活習慣の確立	B	B
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を目指す。	C	C
③高１終了段階で英語検定３級の全員合格を目指す。	B	B
※特進コースの目標		
①良き生活習慣の確立	A	A
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を下回らないこと。そして、全国偏差値６０を目指す。	B	B
③高１終了段階で英語検定準２級の全員合格を目指す。	B	B
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	C	C
②日常の会話による生徒の情報交換	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

(1)①概ね達成できたと考えている。
②行事予定上、メリハリが付けにくい。
③来年度早々に実施を検討している。
④概ね取り組めたと考えている。
(2)①概ね連携がとれていると考えている。
②効果的な実施ができなかった。
(3)①『立腰』が時間とともにいい加減になってきているように感じる。
②成績の上位者を教室に掲示することにより、意識している生徒は多くいた。
③毎日早朝テストを実施したが、合格率にバラツキがある。
④定期考査前の補習は実施した。
※総合進学コースの目標
①まだまだ不十分な部分がある。
②なかなか厳しい状況である。
③約８割の生徒が合格できた。
※特進コースの目標
①かなり確立されているように感じる。
②かなりいい感じで達成できている。
③かなりいい感じで達成できている。
(4)①時間的に厳しい状況である。
②職員室では、生徒の話を多くするように心掛けている。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

総合進学コースは、まだまだこれから伸びしろがあるように感じている。関関同立・産近甲龍といった大学を意識させ高２を過ごさせたいと考えている。

特進コースは、高１では上手く育っている。ただ、高２をどう過ごすかで結果は大きく変わるので、国公立大学を意識させ過ごさせたいと考えている。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	高２学年	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画
(2)生徒・保護者・教員の意思疎通
(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立
(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	B	B
②メリハリのある行事企画と充実	B	B
③思い出に残る修学旅行（オーストラリア）の企画と充実	B	B
④学年企画による校外学習の実施	D	D
⑤前向きな体育大会や上宮祭への取り組み	B	B
(2)①家庭と学校との綿密な連携	B	B
②効果的なＬＨＲや学年集会の実施	B	B
(3)①『立腰』『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	C	C
②競争することを意識した学習への取り組み	B	B
③早朝テストや授業小テストによる「出力」学習の習慣の確立	B	B
④年間を通じた、実力養成のための講習実施	B	B
※総合進学コースの目標		
①良き生活習慣の確立	B	B
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値４５（学年平均）を目指す。	B	B
③高２終了段階で英語検定３級の全員合格、準２級の３割合格を目指す。	B	B
④学習定着タイムを利用した「自習力」の強化	B	C
④年間を通じ、学習への意欲を出させるための補講習実施	B	B
※特進コースの目標		
①良き生活習慣の確立	B	B
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を下回らないこと。そして、全国偏差値６０を目指す。	A	A
③高２終了段階で英語検定準２級の全員合格、２級の５割合格を目指す。	B	B
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	B	B
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

本年度の成果としては、昨年度から引き続き、特進クラスの躍進を達成できたことである。特に、国語・数学・英語の３教科全ての平均偏差５５以上を達成し、２月マーク模試では３教科総合で５８という過去５年間で最高の成績となった。その基盤にあるのは、クラスのほぼ全員に学習習慣が身に着き、クラス内で「団体」として、良い意味での競争原理が働いたことにある。

逆に、課題としては、総合進学コースへの浸透がまだまだ足りないことである。クラス掲示物や学年集会などを利用して「当事者意識」「３年生０学期」といったキャッチコピーを使って奮起を期待したが、まだまだしっかりした学習習慣がつけられなかった。よって、成績面でもまだ達成状況は高いとは言えず、受験に向けて不安は残っている。ここは非常に反省すべき点である。

また、生徒指導面や教務上の学年指導（カンニング）など、かなり大きな事象がいくつか起こり、各クラスとも、かなり落ち着きを失った状態があった。担任がそれぞれ、細かくケアできていない現状を見ると、反省点は非常に多いと言える。特に、当たり前の善悪の判断がつかない幼稚な事象が多く、情けない限りである。最終学年では二者の懇談をもっと増やし、生徒との距離を詰めた教育を心がけ、目を離さず、サポートしていく姿勢が必要であると感じている。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

来年度は、もちろん受験に向けて、結果にこだわる学年にしたい。
学習面においては、特進コースは国公立大学受験に通用する「真の学力」を養成したい。目標人数は、来年度の頭に設定する。

総合進学コースにおいては、生徒の意識改革を中心とした、大学進学を見越した改革が必要になる。
４月から学年での共通認識をもって、各教科で取り組みを強化していきたい。

また、２年生でたくさんの生活指導案件、学年指導案件の問題を起こした点で、総合進学コースは全体の雰囲気について、今後も非常に危機感がある。最終学年は、特に生活指導面にもしっかりと目を配っていきたい。最終学年が最高の一年となるよう、担任全員で生徒への意識改革を促し、教科担当の先生方の協力も得ながら、自らの進路について「当事者意識」を強く持たせ、全員の生徒に、自分で将来を勝ち取らせたい。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	高　３　学　年	記入者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①生徒･保護者･教員の意思疎通
②自立心を養う
③学力の向上
④希望進路実現に向けてのサポート

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①・クラス担任が知り得た情報を、週１回の担任会や学年会で情報交換し、教員全員が同じ方向性を持って生徒の指導にあたる。	B	B
・学年担当者会の可能な限りの実施。	C	C
②・立腰で心を落ち着かせ、授業を真剣に受けさせる。授業だけでなく家庭での学習もいかに増やすかが大事である。受験生であることを実感させ、個々の目標を明確にさせて、その実現に向けて行動させる。	B	B
③・８限授業実施に伴い、限られた時間の中での補講習の方法を工夫する。	B	B
・ＡＯ入試、指定校推薦等で合格が内定した生徒に対するケア。	B	B
④ ・個々に希望進路がそれぞれ違うので、その都度、二者面談を行うことで生徒の現状を的確に把握し、担任・学年団での情報の共有を行うことで、生徒を的確な進路に導いていく。	A	A
・模試を有効的に活用し、的確な進路指導を行う。	B	B
・総合進学コースからの「関関同立」「産近甲龍」への学力試験による合格。最後まで諦めさせない強い気持ちを持たせる。	B	B
・特進コースは国公立大学に目標を定め、センター試験で高得点につながる指導をする。	B	B
・進路指導部と連携をとり、個々の生徒の対応に当たる。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況　　達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

①： 二者面談をこまめに実施し生徒の状況を把握し、担任会も必ず週に一度おこない普段から密接な連携をして生徒の状況の共有ができていたが、１年間を通して、学年会がなかなか開けず、学年の先生方とは回覧だけで情報の共有が密にできなかった。

②：３年生になってからは、自覚を持って自ら勉強に取り組む姿勢が見られた。授業に対しては、主体性を持って真剣に受けるのは当たり前で、休日や長期休暇にも登校し、個々の目標に向かって自分の勉強をしている姿が見られた。

③：補講習については、教科の特性もあるが、できるだけ一方通行の講義にならないように、個々の生徒に対応できるように実施した。指定校で内定した生徒に対しては、英国で課題に取り組ませた。課題提出・確認テストに追われていたようであるが、勉強にはなったと思われる。

④：二者面談は、各学期に最低１回は実施し、常に生徒の把握に努めることができた。
模試に対しては、試験前に過去問対策をし、受ける前のモチベーションを高めさせ、受けた後のレビュ―を活用して、わからない箇所の確認をすることで意識を高めさせた。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

総合コース

将来像をしっかり考えた上で、本当にその大学等に行きたい生徒のみ AO、指定校推薦入試を利用するように指導した。その結果推薦に頼らず最後まで諦めずに受験をしてくれていた。ただ、時間が間に合わず、関関同立を目指す生徒が少なかった。
２年の３月からではなく、もう少し早い段階から自分の進路を明確にさせ、自主的に勉強する環境を整え、行動させることが必要である。目標大学に関しても、産近甲龍の層を増やすことで、そこから関関同立まで頑張れる生徒が出てくると思われる。
自分から目標に向けて勉強をやりだした生徒の意識や、成績の伸び率は高いのでいかに早くそこに持っていくかが大切である。

特進コース

１年生から学習習慣は程度身についてはいるが、模試の結果や、現状の力不足を考えて、何が何でも国公立大学に合格するという意欲と自信に欠けていたかもしれない。保護者と共に自分の可能性を信じさせ、センター試験までの長期的な計画のもと、最後まで粘れる精神力をつけさせることが大事である。
２学期以降、成績が伸びず５教科から３教科へ変更する生徒が出てきたので、最後まで５教科で頑張るように指導を続けた。しかし、保護者の中には私大へシフトするように家で子供たちに伝えていた方もいて、指導が同じ方向に向いていないこともあった。

部署名	人 権 教 育	記入者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

① 「いじめ」の新しい教材を開発する（高校）

② ・育てる人権教育の実践（中学校）

・被差別部落民や在日ｺﾘｱﾝの人権保障，権利保障の根拠となる歴史的背景をしっかりと教える。（高校）

③ 文公輝さんを講師に招いて校内研修をして，教職員の人権意識を高める。（中学校・高校）

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①「いじめ」の問題について考える ・「いじめ」の問題を高校１年が書いた人権作文を読んで原因は何かを考え，自分の問題としてとらえ，一緒に解決していく姿勢が大切である。（高校）	A	C
④ 育てる人権教育の実践 （中学校） ・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用して、安心して学校生活を送れる集団づくり。	B	A
③ 歪んだ歴史観，偏見，蔑視を糾していく行動が必要（高校） ・ﾙﾜﾝﾀﾞでﾗｼﾞｵ番組でのﾍｲﾄｽﾋﾟｰﾁがﾍｲﾄ･ｸﾗｲﾑ（憎悪犯罪）そしてｼﾞｪﾉｻｲﾄﾞ（大量虐殺）に至った例がある。日本でも関東大震災でのﾃﾞﾏから起った朝鮮人殺害がある。在特会らによるﾃﾞﾏやｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上の差別的な書き込みに流されてしまわないような歴史学習が大切です。	B	B
④ 人権教育推進会議の充実 ・多文化にﾙｰﾂを持つ人たちや被差別部落の人たちの問題をどの教員も自分たちの社会問題として共通理解。	B	B
・在日外国人問題，被差別部落問題,いじめ問題など，それらが個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく，同じ根源を持っている点を押さえる必要がある。 ・集団適応等で問題のある生徒の実体把握と共通理解。（支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）	A	B
⑤ 校内研修の実施。	A	A
⑥ いじめ防止対策委員会に参加。	B	C

＊遂行度…項目の進度状況　　達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

３．平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 中学校では「いのちいただく」を作成し，新しい道徳本を使って「男女間の問題」「思いやりについて」などのｴｸｻｻｲｽﾞを作成した。
高校では中世・近世・近代と「ｼﾘｰｽﾞ映像で見る人権の歴史①巻～④巻」の DV 教材を活用してきました。近代以降こそ大切だと思われたので，水平社創立以降の部落の近代史のﾌﾟﾘﾝﾄを作成したが，授業内におさめるｺﾝﾊﾟｸﾄなものはできなかった。また歴史の出来事がより具体的に理解できるように Q&A 方式を取り入れました。日朝関係の歴史においても，古代から江戸時代までの歴史を Q&A 方式を含むﾌﾟﾘﾝﾄを作成しました。 日本史の知識が必要な部分もあって難しかったが，この Q&A をよく読んで自分の意見を述べている生徒もいたので評価は B である。

② 育てる人権教育への取り組みは、実施面での困難な状況であるので本年度の評価は低い。

③ 推進会議については、いつものとおりである。

④ 校内研修については，多民族共生人権ｾﾝﾀｰの文公輝（ムンゴンフィ）さんを招いてﾍｲﾄｽﾋﾟｰﾁから考「ﾚｲｼｬﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄの典型的な 8 ﾀｲﾌﾟ」を中心に micro aggression や属性について講演をしてもらった。理解を深めるために workshop もやってもらって好評でした。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

① 部落史の DVD 教材を使った新しい教材の作成は，近代までは完成しました。近代以降は自ら作成したがﾎﾞﾘｭｰﾑが多いので苦労したが「中尾健次」の著書を参考に簡単にまとめた。

② 育てる人権教育については,先生方に理解してもらっても実践が困難なようである。

③ 推進会議は、各学期末に組み込んでいただいています。各学年から丁寧な報告を頂いています。特に 2 学期以降生徒の意見に対してｺﾒﾝﾄをつけました。各担任が次年度以降に参考にしていただければ，幸いです。

④ 冬の校内研修は、講師の先生に「在日外国人教育について」(在日ｺﾘｱﾝ 3 世として，保護者としての願い)というﾀｲﾄﾙでﾚｲｼｬﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄの典型的な 8 ﾀｲﾌﾟを中心に講演をしてもらった。また，後半は「ｼﾁｭｴｰｼｮﾝｶｰﾄﾞ」を使って，どのような部分がﾚｲｼｬﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ，人種差別につながるのか，外国ﾙｰﾂの住民はどのように感じるのか意見を出し合った。

部署名	保健管理	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

１.保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
２.自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
３.健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
４.学校保健組織活動の円滑な推進

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る		
①　定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実	A	A
②　配慮を必要とする生徒の把握と学校保健情報の共通理解	A	A
③　救急処置の体制整備と迅速な対応、けがの予防	A	A
④　学校環境衛生の充実と安全点検	B	B
⑤　学校感染症の予防と発生時の迅速な対応	B	A
２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践		
① 心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集団的保健指導の実践	A	A
② 行事に合わせた保健指導の充実	A	A
３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化		
①生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る	A	A
②スクールカウンセラーと生徒相談が連携し、共通理解を図る	A	A
４、学校保健組織活動の円滑な推進		
①学校保健委員会の組織的運営の確立（学校保健計画作成・実施）	B	B
②生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（検診準備及び介助、啓発活動、心身の健康に関する情報発信）	A	A

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

定期健康診断実施を「総合検診」として全学年１日型で効率化を図ることができ、定着化してきた。また、運動器検診や色覚の検査についても保健調査票等の配布・回収等をスムーズに実施して、昨年度の結果も併せてスクリーニングに役立てられた。また、臨時の健康診断においても、男女プライバシーに配慮して学校教育活動の一環として教職員の共通理解、組織的連携を図ることができた。配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的な対応ならびに支援を行うことができた。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

心身の発達に特性のある生徒に対しては、発育・発達に応じた健康課題に対して個別の保健指導を行った。また、集団的保健教育では性の教育においては、保健所の指導のもとに保健体育科と連携して、中学校でも知り得なかった内容で感動を与えて成果が出た。また、宿泊的行事における健康管理や上宮祭では自主的な活動が昨年に比べて充実していた。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

男女の発達の特性を鑑み、専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添い、担任、保護者等と組織的な連携、特に教育相談（新しく来られたＳＣ）とは強く連携を深めることができた。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

今年度より上宮祭において、生徒主体で食中毒やインフルエンザ予防の保健啓発活動の推進を生徒保健委員会で行った。また、太子ロータリークラブより医療機器の寄贈に際して、生徒保健委員会が中心となり、地域の方々と連携した学校保健活動を行い充実しました。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

インフルエンザなどの流行やマダニ、ヒアリ、毒ヘビなどの感染予防と発生時の迅速な対応、予防啓発活動を積極的に行う必要がある。

また、救急処置対応だけでなく、けがの予防に努めるために、スポーツ振興センター請求の実態の数値化や予防啓発教材を活用して、けがの予防情報の発信を進めていきたい。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

睡眠、栄養、運動などの基本的生活習慣を自律的に改善、健康増進が将来において図れるように、予防教育を企画したい。また、保健室頻回来室者や欠席過多の生徒に対して保健指導に努める。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、教育相談（ＳＣ）とカウンセリング後の状況についても、必要に応じて現状報告を行い、連携を深めていく必要がある。また、教室に入りづらい生徒には全教職員と連携を密に図る必要が急務である。

また、「生活アンケート」等の内容もあわせて心の問題に注意を払い、組織的連携を図る。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒が、主体的に活動できる保健委員会活動の企画（がんや喫煙の問題、エイズ予防、心身の健康に関する情報発信など）を今年度以上に援助していきたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	中学・高校図書室	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①図書室の運営・管理の充実
②希望図書の購入と選定の充実
③読書活動の推進
④図書室利用生徒の状況の把握

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①図書室の運営・管理の充実		
（１）可能な限り開館に努める。	B	B
（２）購入新着本をできる限り早く登録する。	B	B
②希望図書の購入と選定の充実		
（１）年間２～４回の図書選定を行う。（中間考査、学期末にて）	B	B
（２）生徒、教員の希望図書に対応する。	B	B
③読書活動の推進		
（１）図書利用、読書の啓発に努める。	B	C
（２）図書委員活動を推進する	B	C
④図書室利用生徒の状況の把握		
（１）中学生、高校生が読書、課題学習、受験勉強に専念できるように努める。	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

●図書だより、図書委員の活動により連絡、情報が発信できた。

●図書のリクエストも増えて、生徒の関心ある図書を購入できた。

●放課後の利用、高校生の自学習もたくさんであった。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

●図書室を生徒にとって身近な存在にしていきたい。

●可能であるなら休憩時間も在中し、開館してあげたい。

●図書委員の活動を推進していく。（読書推進ポスター、放送連絡など）

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	広　報	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。
②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。
③学校案内のフルモデルチェンジ
④卒業生に対する広報活動の検討。

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。 （特に女子に有効な見せ方） ※目標として、男女比率の女子の比率をあげる。	B	B
②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。 ※広報係のメンバーのブログに対する意識の向上 ※視聴滞在時間の長いホームページ作成の検討	C	C
③新しいコンセプトの学校案内の作成。 ※他校学校案内の研究 ※プレゼンテーションの開催	B	B
④卒業生に対する広報活動の検討。 ※同窓会との連携	C	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 今年度も大阪の学校案内を集め分析をおこなった。

② 他校の状況を他の分掌に情報として伝えることができなかった。

③ 今年度は、業者選定および広報内容について精査をおこなった。費用対効果を考え有効だと思われるものにかなり絞り込んだ。アプリの導入を実施した。

④ ブログのアップ回数をなかなか増やすことができなかった。ホームページのリニューアルの準備ができた。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

① 本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方）
目標として、男女比率の女子の比率をあげる。
・総合進学コースの魅力を伝える方法の検討。
・国際理解教育の見せ方の検討。

② ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。

③ 卒業生に対する広報活動の検討。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	業務推進室	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①　今後のデータ処理システムの考察
②　個人情報の管理の徹底
③　環境の充実
④　業務軽減への方策

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①　今後のデータ処理システムの考察		
・　校務システムの導入の検討	C	D
②　個人情報の管理の徹底		
・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起	C	C
・　個人データの管理の徹底	C	C
③　環境の充実		
・　イントラネットの整備（校務システムの検討を含む）	C	C
・　教員へのノートパソコンの貸し出し	B	B
・　ファイルサーバ内のフォルダの整理	C	C
・　データのバックアップ体制の充実	B	B
④　業務軽減への方策		
・　分掌内での情報の共有化の徹底	B	C
・　効率的な業務の分担の実現	B	B
・　作業マニュアルの改訂	C	C

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 今後のデータ処理システムの考察
・ 校務システムの導入の検討については，情報収集のみできた。

② 個人情報の管理の徹底
・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起は十分とは言えなかった。
・ 個人データの管理の徹底については，あまり成果は見られなかった。

③ 環境の充実
・ イントラネットの整備については Classi 導入により活用できようになった。
・ 教員へのノートパソコンの貸し出しは実施できた。
・ ファイルサーバ内のフォルダの整理は十分とは言えなかった。
・ データのバックアップ体制の充実については，実現できた。

④ 業務軽減への方策
・ 分掌内での情報の共有化の徹底は，十分とは言えなかった。
・ 効率的な業務の分担の実現は，成果があった。
・ 作業マニュアルの改訂はあまり進んでいなかった。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

① 成績処理の効率化
・ 成績原票印刷の再検討

② 個人情報の管理の徹底
・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起
・ 個人データの管理の徹底

③ 環境の充実
・ 教員へのノートパソコンの貸し出し
・ ファイルサーバ内のフォルダの整理およびサーバの分散化
・ データのバックアップ体制の充実

④ 業務軽減への方策
・ 分掌内での情報の共有化の徹底
・ 効率的な業務の分担の実現
・ 作業マニュアルの改訂

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	学校評価	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①学校評価に関する企画・立案・実施
②学校評価の報告書の作成・提出
③授業アンケートに関する企画・立案・実施
④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 平成 29 年度の各部署からの報告書の資料作成		
・各部署からの重点目標の確認	B	B
・各部署からの中間評価の確認と点検	B	B
・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	C	C
② 平成 28 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	B	B
③ 授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	B	C
④ 学校関係者評価に対する資料作成	B	B

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・年度末評価の点検と資料作成は、3 月末まで期間を要するので現時点では、評価は出来ないが他に関してはほぼ予定通り実施できた。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・学校評価も 10 年経過し、見直しの時期に来ているかもしれない。
また、より見やすい資料にするための書式を今後検討していく。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	事務室	責任者名	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 29 年度の重点目標（4 月末）

①適切な事務処理水準の維持
②校内・教育環境のさらなる整備
③消耗品等、管理経費の削減

２．平成 29 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①適切な事務処理水準の維持（昨年度より継続） ・昨年度末に１名が退職し、減員のままであり、大変厳しい状況である。また、異動もあり軌道に乗るまでの期間、質を落とさず事務処理にあたりたい。そのためには、常に高い意識をもって職務に当たることが大切である。些細な部分をこそ、しっかりと確認する。仕事の内容によっては、２人以上でダブルチェックを行いミスを防ぎたい。 ・各自の仕事内容をお互いに把握し連携を密にすることで、未然にミスを防ぐ。 ・教務の先生方とも連絡をこまめに取ることで、遺漏のない事務処理を行いたい。 ・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切丁寧を心がける。	A	B
②校内・教育環境のさらなる整備（昨年度より継続） ・破損・不良個所の早期発見、補修を心がける。 ・ICT 教育に関する部分でのバックアップ。情報の提供を図る。	A	B
③消耗品等、管理経費の削減（昨年度より継続） ・倉庫を整理整頓し、無駄な在庫の発生を防ぐ。また、同一消耗品を統一し、品数を減らし経費の削減に努める。	A	A

＊遂行度…項目の進度状況
　達成度…項目の達成・評価状況

３．平成 29 年度の成果と課題（3 学期終業式）

本年度、１名の増員を得られ、業務の負担軽減が図られた。これにより、各自業務に専念できる環境となった。

上宮からの異動者と新人１名が機能し、大きなトラブルを抱えることなく、１年を乗り切ることができた。日々のコミュニケーションをしっかりと取っていたこと、お互いのバックアップを心がけた結果であり、年度当初に掲げた目標を十分達成できたと思われる。また、チームとしてのまとまりも良い方向へ進んでいる。

施設の保全などに関しては担任・教員・校務と連携し、早期発見・修繕を行うことで痛みを最小限にとどめることが出来ていると思われる。

課題としては、個々人のさらなるスキルと執務意識の向上が望まれる。日々の業務をこなすだけではなく、常に問題意識を持ち更なる質の向上に目を向けたい。

４．今後取り組む内容（3 学期終業式）

現状に満足することなく、事務室・教員・校務とコミュニケーションンを図り、事前に良い準備を持った状態で業務にあたりたい。創意工夫で学校・学園のための仕事を自ら見つけ解決のためにチームワークを発揮することが求められる。

電話や窓口での受付があり、全員で業務改善などの会議を改まった形で開くことが難しいので、日々のコミュニケーションをただの意思疎通としてだけではなく、これをうまく利用することで、会議を開くことなくメンバーの意見一致や決め事、問題のあぶり出しなどを行いたい。そのためには、記録することが大きな意味を持つと思われるので、しっかりと記録・定期的な振り返りの機会を持ちたい。

中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

平成 29 年度

各部署の中間評価報告書

上宮太子中学校・高等学校

学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高校教務部	**責任者名**	

（１）**教務運営システムの整備・効率化**

①行事の着実な実施と改良

・昨年の反省を踏まえながら、可能な限り改良を加えている。

②教務各係の業務内容と資料の点検・整備

・資料の点検・整備については、後半で実施する予定である。

③教務内規の精査・改定・整備

・現在、教務内規を精査しているところである。

④各部署との連携強化による業務効率化

・業務推進ならびにＩＣＴと連携しながら新しいシステムについても検討している。

（２）**有効な指導体系の継続検討**

⑤カリキュラム改良の検討

・現在の枠にとらわれず、全ての可能性を検討している。

⑥シラバス改良の検討

・進められていません。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

中長期で進める内容が多いため、結果を報告しにくい面がある。今後も可能な限り先生方と連携し、多面的に検討を進めていきたいと考えています。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学校教務部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

○項目(１)教務運営システムの整備・効率化について、

①行事の着実な実施と改良推進

③教務内規の精査・改定案作成

○項目(３)上宮学園中学校との連携検討について、

⑦校外学習等連携行事及び内部進学規定の検討推進

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

○項目(２)に関し、カリキュラム・シラバス改良の検討については進捗できていない。

年度末に向けて推進していきたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

生徒相談

１・２とも順調に進行している。

スクールカウンセラーによる教職員への研修会は、3 学期に予定している。

生徒会

行事は、順調に進んでいる。

委員会活動に差が出ている。

上宮太子ニュースは、順調に発刊できている

生活指導

１・２・３については、担任・生活指導係教員との協力のもと実行できている。

4 については今後も継続して検討していく。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

生徒相談

問題点は、特になし。

生徒会

委員会活動を活発にする。（動いていない委員会を活発にする）

生活指導

問題点は、特になし。

平成 29 年度各部署の中間評価
報告書

部署名	進路指導部	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

Ⅰ．ａ．読書指導推進
長期休暇中の課題として読書を課したが、普段の読書習慣につながっていない。
ｂ．家庭学習推進
スタディサプリの課題提出は改善しているものの、しっかりと視聴しているかは疑問である。
ｃ．模試の事前・事後指導、結果分析
教科担当者は事前・事後指導を行っている。また、分析の結果は担任会や教科会において、可能な範囲で行っている。

Ⅱ．ｄ．生産性の高い進路指導体制構築
先生方の間で業務の分担はできているが、業務全体の見直しと協力し合う関係構築が課題である。
ｅ．大学入試制度改革の研究と啓蒙
最低限必要なことを進路指導部や教科に連絡しているが、対応体制が整っているとは言えない。
ｆ．アクティブラーニングの研究と啓蒙
各教科に依頼して、外部セミナーに参加していただいている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

Ⅰ．ａ．中学生の読書環境を整えることを中心に今後も精力的に進めていくが、有効な対策を立てることが難しい。
ｂ．スタディサプリの有効性について、生徒・教員に伝えるよう留意する。
ｃ．これまで通り、担任会や教科会で分析結果を報告していく。

Ⅱ．ｄ．業務量の削減・分担について、さらなる検討を行う。また、互いの業務が見えるように工夫する。
ｅ．職員会議等において、情報発信を行う。
ｆ．長期休暇中などを中心に、外部セミナーに積極的に参加していただく。
また、セミナー参加後の情報共有に留意する。

※その他　模試の振り返りシートを改良し、生徒の進路意識を高められるようにする。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	

（1）高校入試における受験者数安定化のための活動

① 公立中学校に対して訪問数は昨年の倍である。
② 公立中学校での出前授業や学校説明会は増加している。
③ オープンキャンパスのリーフレットは重点地域の中３生すべてに配布した。オープンキャンパスの参加者は昨年より増加した。

※アプリの導入、学校紹介ＶＴＲの刷新など広報活動をサポートするツールも充実させている。

（2）上宮学園中学校の活動

上宮との連携を図りながら上宮学園中学校の広報活動を行っている。

（3）情報収集・共有化

・渉外活動や研修会参加において情報収集は積極的に行っている。入試対策部内での共有は概ね図れているが学校全体での共有は達成できていない。

（4）今後に向けての対応策検討

・収集した情報をもとに、検討中である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・（1）について

塾や中学校を通し、積極的に案内をかけていく。説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。特に今まで関わりのあった受験生に対し、塾を通じてのアプローチを強化していく。

・（2）について

今後もより一層の連携を図る。

・（3）について

学校全体での情報共有化を図る。

・（4）について

部内での意見を集約し具体的に検討していきたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

当面の課題は、新課程に向けて教科の教授内容をどう改革していくかということである。電子黒板などのハード面は徐々に整備されてきたが、本当に何がこれから必要になってくるかは、しっかりと見極めて方向性を決めていかなければならない。「論理国語」の設定が示された中で、特進クラスの論理エンジンを軸にした授業改革は方向性に間違いはないかと思う。しかし、新テストの例題から考えても、それだけでは十分ではなく、さらに、授業の中で、問題点を見つけ、自ら解決する方法を「発信」する力を身に付けるための「クリティカルシンキング」の視点を加えていく必要性が出てきている。しかし、現状では、全体的に見て改革が進んだとは言い難い。実際、日々の授業や校務・入試編集などの業務をこなすことが優先され、中々着手できていない。1人１人の先生方が、教科指導に十分力を注げる余裕が切に欲しい。

受験対応については、この学年（単元）ではここを重点的に、といった共通認識が必要になっていると思う。その意味で、今年度は、高校を中心に「教材の共有化」を行ったが、ある程度は各先生方の中でイメージが生まれてきた。来年度以降、もっと整備した上で活用したい。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

語彙・読解力検定においては、国語としての「語彙」の視点だけではなく、時事的な知識も多く得られることから、これからの社会に役立つ検定であると強く感じる。１１月に初めての実施となるが、新課程への流れとして教科の枠を越えて役に立つものであると思うので、うまく活用したい。さらに、年度末に向けては、入試編集業務が一段落ついたところで、一度全員に向けて、教科指導の勉強会や、今後の教科改革（新課程に向けての方針）を議論できる場を設けていきたい。各先生方においては、それぞれの持ち場で精一杯やって頂いているものの、思ったように生徒に伝わらない、また、これからの教育改革について出遅れていないのかと感じられている。総合進学・特進ともに、どのように生徒を導いていくのか、長期的視点と年単位の視点で、それぞれの指針を少しずつ作っていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社会科	**責任者名**	

(1)授業の厳正化と社会科の強化

・定期考査・模擬試験では、各科目によりばらつきがある。

(2)教科会の活性化

・なかなか実現できていない。

(3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

・日本史と世界史においては、イグザムを導入していただいた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

(1)授業の厳正化と社会科の強化

・今後も真摯に取り組んでいきたい。

(2)教科会の活性化

・授業見学会は是非実施したい。

(3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

・入試問題作成については、少し変更をした。

・積極的にイグザムを活用し是非、学力向上に努めたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	**責任者名**	

１．授業の厳正化

各コースの特性を考慮した教材研究を行い，授業に反映させることを心掛けてはいるが、個々の力に頼るところが大きく、担当教員間での情報交換を行い、より良い教材を共有するところまでは到達していない。

１分前の音楽で移動し、チャイムで合掌状態を作ることを心掛けた。

２．数学力の向上

授業内容の定着，模擬試験対策のための家庭学習を提示し，学習状況の把握に努めた。

成績不振者への補習，コース・進路を考慮した講習を長期的または短期集中的に行った。

３．教科会の活性化

連絡の徹底と教科内の共通認識に努めたが、研修まではできていない。

４．高校入試問題の研究と入試編集の効率化

教科担当者全員が原案を提出し，標準的な良問作成に取り組んだ。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・自由に授業見学を行っているが，計画的な授業見学は実施できていない。
・大学入試問題の研究については、個々に行っているが，教科会においての全員での研修はできていない。

やるべきこと、やれることはまだたくさんあると思われる。少しずつでも進めていくことが必要。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理　　科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

① 数回実施した研究授業を通して、互いに指導力を向上させるよう努めている。また、ＩＣＴを用いた授業を積極的に行っている。

② 補講習も可能な限り実施できている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

① 実験や観察を取り入れる時間的余裕があまりない。実験観察に変わり生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。

② 「やり直しノート」を提出させてはいるが、本来の目的である『復習』になっていない生徒が多く、「やり直しノート」の限界を感じている。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

・特進ではほぼ毎回ノートチェックを実施。

総合進学では担当者により幅がある。

・特進では小テストをほぼ毎週数回実施。

総合進学では担当者により幅がある。

・音読指導は読解を中心とするコミュニケ―ション授業ではほぼ実施している。

・辞書・副読本は積極的に活用している。

・英検は例年通り多数受験し、2 次面接の指導もかなり行っている。

・中学では教材の多読に力を入れている。

・非常勤の先生方の中には時々、授業見学をしている。

・校外の研修には忙しさもあり、あまり参加できていない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・特進クラスはどの学年もまめに予習のノートチェックと小テストを
行い、成果を上げているが、総合進学では担当者により幅が多い。
教科会などでできることからの実施を促す。

・特進クラス担当者の中には分掌の負担が大き過ぎる人もいて、予習ノートチェックと
小テストをもっと出来るような環境を作ってもらいたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

・時間を守る・集団行動の様式の習得と実践（静と動）・服装を正す・整理整頓・心肺蘇生法の習得

概ね出来ている。

・各種目の技術習得・安全面の確保

生徒全般の運動能力の低下が表れてきている。特に体力面では著しく低いように感じられた。それに伴い技術の習得も遅いような気がする。技術体力が低下するとけがや事故が増え負傷者がでるのだが、取り返しのつかないような事故は起こらなかった。引き続き安全面に配慮し、安全教育も同時に行っていきます。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・グラウンドでの授業や部活動において

備品の管理状況が悪い。昨年度と同様に部活動と授業で共有している備品の損失がある。

運動部との連携を密にして、改善していきます。

消耗品（ボール、ラケットなど）の管理。紛失や破損は多少致し方ない、普段の管理が大切。定期的に体育倉庫等の整理整頓に努め改善傾向である。引き続き、各担当の授業で管理の徹底を促し改善していきます。

平成29年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	芸　術　科	責任者名	

（１）表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。

・三科目とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。

・中学の音楽・美術とも１学期の期末考査を実施した。方法内容について、再考せねばならないと考えている。

（２）評価評定の方法について協議する。

・教科会にて何度か評定の在り方について話したが、今も進行中である。

（３）行事への協力、取り組みについて。

・聖徳書道展において展示のレイアウト及び作業に少しばかり協力できた。

・上宮祭においても文化的な発表面で、協力できた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。

・中学の音楽・美術の考査を実施しているが、中学すべての学年が１コマ（１クラス）での授業であり、考査が１００点満点でないことや、平常点のことなどを考えると、授業時間内でのテストにした方が良いのではないかとも思われ、今後どうあるべきかを継続して考えていきたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	技術家庭科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①技術・家庭科に対する学習意義の理解

・ 他教科との連携ができていないので、計画を立て提案していきたい。

②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成

・ 家庭科での家族員への感謝の心や奉仕の精神は少しずつ浸透してきた。これからも継続して伝えていきたい。技術では、学習がより身近に感じてもらうようにメディア活用を推進している。

③男女共同参画社会の推進

・ ジェンダーの正しい理解を踏まえ、協力し合うことや互いを理解することを意識させている。

④教材の整備

・ 実習教材は検討でき、必要な備品などの整備を進めていっている。

⑤実践的授業の実施計画

・ 年間計画の通り進めている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

＜高校家庭＞

・ 新しい教材で授業を進めているが、改善点などもわかってきたので、その都度修正して授業に臨むように心がける。

・ 生徒の反応を大事にし、生活に直結させるよう情報収集をさらに行い、理解しやすく知識を深められるよう努める。

＜中学技術家庭＞

・ 生活の中の学習を意識し、保護者の理解や協力をしていただきながら、興味関心を深めさせる。実習では、知識だけでなく、説明を理解させ、事故なく安全に進められるよう準備・片付けを徹底する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

① 授業計画の再検討

・ 新課程における年間指導計画の再検討は，継続して実施している。

・ 効果的な実習内容の検討は，継続して検討する。

・ 座学で扱う内容についての再検討は実施し，授業に反映している。

② PC 教室の活用の促進

・ 他教科における PC 教室の活用は，一部教科でのみ実施している。

・ 生徒用 PC の整備はすでに実施している。

・ 放課後等での PC 教室の開放は，実施できていない。

③ 大学入試制度改革に関する情報収集

・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収は，あまり進んでいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

① 授業計画の再検討

・ 成績評価方法（実習内容を含む）について検討する。

・ 効果的な実習内容については，継続して検討する。

② PC 教室の活用の促進

・ PC 教室の活用については，継続して検討する。

・ 放課後等での PC 教室の開放については，運用方法等について検討する。

③ 大学入試制度改革に関する情報収集

・ 「情報科」大学入試導入については，研修会に参加する。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①日常の挨拶、法然上人像への礼など、概ね実践できています。

②授業開始の「一枚起請文」は元気に奉読できていると思います。しかし、学期の初めは少し元気のない時もあります。

授業においては各学年に応じた授業展開、内容の工夫が必要です。

③高校１年生が１学期に比べ少し元気がないように思います。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①、②の項目とも２学期になり生徒の気持ちの緩みを感じます。始業での起立、礼、合掌、など威儀作法について生徒に指導していきます。

中１は春、夏の合宿で実践した内容を継続して、授業に活かせるようにしていきます。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成29年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	中学１年生	**責任者名**	

２９年度重点目標について

① 基本的生活習慣の確立、助け合える集団の育成

学力向上に向けて､各自の生活の上での基本姿勢と学習環境を整えることが大切であると考える。まずは、今年度から実施の授業の開始・終了の合掌と立腰教育の徹底を心がけている。概ね良好であるが、数名姿勢の整わない状況である。引き続き、徹底を促し物事へ向かう基本姿勢を大切に進めて行きたい。

学習環境に深く影響すると考えられる生徒間の人間関係においては､お互いを理解し認め合う意識がまだ育っておらず、自分の場を確保するためのトラブルが収まらない。起こってくる事象を解決しながら、生徒の成長を見守っていきたい。

② 学習習慣の確立と学習意欲の向上

欠席者は殆どなく、出席率は良好であり、学校生活消極的な様子は感じられないが、提出物を「期限を守って提出する。」等が徹底されず、全体の学習意欲が今一つ盛り上がらないように思う。個々には、意識の高い生徒もいるので、教科担当の先生方にアドバイスいただいて、自主学習に向けての取り組みを強化していきたい。

③ 漢検・英検の合格率の向上

国語、英語の授業においても、漢字検定・英語検定への対策に取り組んでいただいた。定着タイムも利用して全体で合格率のアップを目指した。結果は、まずまずであったが、漢字検定４級全員合格・英語検定５級全員合格には届なかったので、引き続き、取り組んでいきたい。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

陰口やいじり等、落ち着かず、クラスの学習環境を乱す状況がある。学年団の先生方にご協力いただいて、個々の意識で学習環境を整え、皆で協力してクラス全体でのレベルアップを促していきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学２年生	**責任者名**	

２９年度重点目標について

①　責任ある言動・行動について

２年生になり随分言動・行動は変わって来たように思う。ただ素直にハイ・すいませんが言えない生徒もいるため、今後粘り強く指導していく必要があると感じている。

②　早朝テストなどの取り組みについて

１年次に比べると当たり前ではあるが、事前学習を行っている生徒が増えた。ただ、早朝読書の時間が足りていないのが、現状となってきた。

③　遅刻などの生徒はほとんどいないので今後も引き続き指導していく。家庭学習の習慣をもう少しつけたいのが、学年としての思いである。

④　中弛みについては今のところ具体的には表面化していないが十分備えなければならない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

全般的な問題点に関しては、成績がなかなか伸びていかない点が課題である。成績不審者には、居残り学習などの対策を講じて、対応したいと考えている。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学３学年	**責任者名**	

平成２９年度の重点目標

①　基本的な生活習慣を身に付け、学力向上を目指す。

②　総合進学コースの生徒において、基礎をしっかり身に付けさせる。

③　特進コースの生徒において、学力推移調査で高得点を獲得させるための取り組みを行う。

④　放課後を利用し、補習講習を充実させる。

⑤　人格形成の確立。

３年生になって、人間的に成長している生徒が多い。その為か、遅刻・欠席などは激減し（不登校生を除く）、提出物の提出も滞ることが少なくなっている。総合進学コースにおいてはまず授業をしっかり理解することを重点目標にしているが、家庭学習、特に考査前の学習が甘いように思われる。特進コースにおいても、自ら学ぼうとする姿勢に乏しく、学力推移調査の成績にも表れている。修学旅行の経験が、彼ら達を大きく成長させたと実感している。旅行中は大きな声で叱責することもなく、ケジメをつけた行動を行っていた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

「自ら学ぶ」という意識に乏しい。高校入試がないため、学習に対する認識が甘く、それが定期考査の結果（主に総合進学コース）に現れている。特進コースにおいては、現状以上の事に進もうという意識がないので、授業などで負荷を掛けていかなければならないと感じている。

性格上、反抗的な態度をとる生徒は皆無で、素直に取り組もうとする所があるので、後半は学習において、負荷の多い内容を実施して行こうと考えている。

また、将来（仕事選び）などで不安に感じている生徒もおり、折を見て「仕事観」についても考えてさせて行こうと思う。

１・２年生時に比べ、飛躍的に大人になっている。反面、精神的に不安定な生徒もいることも事実なので、今後も生徒の言動に注意を払いながら指導していこうと考えている。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高１学年	**責任者名**	

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画

・各クラスとも上宮祭への取り組みは、積極的であった。

・12 月 13 日に外部講師を招いての教育講演会を実施予定。

(2)生徒・保護者・教員の意思疎通

・第２回保護者説明会が平日であったため、出席率が５割以下となった。

(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立

・特進コースは、概ね達成できているが、総合進学コースでは、クラブ活動との両立が難しい。

(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

・なかなか意思疎通が難しい状態である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画

・12 月 13 日に外部講師を招いての教育講演会を実施予定。

・校外学習は、今年度は実施せず、来年度の早々に実施予定。

(2)生徒・保護者・教員の意思疎通

・特に高１の保護者説明会は、土曜日に実施していただきたい。出席しなくても大丈夫という状況を作りたくない。

(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立

・総合進学コースでは、早朝テストで英語の強化を考えている。

(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

・まず、時間が合わず連携・意思疎通は難しい状況である。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高２学年	**責任者名**	

（１）学校行事へは、前向きな参加を促すよう、担任団で生徒への働きかけを行いながら進めてきた。

体育大会では３年生を補佐し、皆で団結した体育大会を作り上げる手伝いが出来たのではないかと思う。また、上宮祭ではクラスそれぞれが工夫し、一人ひとりに責任を持たせ、クラスで盛り上がり達成感を得ることができた。修学旅行については、まだこれからではあるが、生徒たちが一生の思い出となるような行事にしたいと考えている。球技大会は３学期で検討中。

（２）何名かの不登校生徒や問題のある生徒もいるが、各担任がそれぞれの家庭から信頼を得て連絡を密にしており、保護者との軋轢はない。生徒全員が前を向いて頑張れる環境作りをすべく、日々努力している。学年では、学期に何回か、テーマを設けた学年集会を実施し、生徒の学力伸長につなげられるよう、学年の雰囲気の改善を意識して活動できている。

（３）年間を通じ、しっかりと「出力」する授業を展開してきたことで、総合進学コースもじりじりと学力に繋がっていることを実感している。特進コースは、１年時より続けてきた英語の継続的な学習がここへ来て驚異的な伸びに繋がっており、すでに相乗効果は数学の成績にも波及している。この勢いをさらに、国語・社会・理科にも繋げていきたい。

（４）学年担当者会議が開けていない。単純に、時間が足りない。担任間での情報交換は密であるが、もっと担当者と話せる時間が必要。特に、先生方に発信するだけの余裕がない。なんとかならないかと思う。

今後の取り組み

夏休み明け、総合進学コースの生徒の様子を見て危機感を感じた。せっかく一学期に培った学習への姿勢が、完全に「中だるみ」の雰囲気になってしまっていた。すぐに立て直しを図ったが、上宮祭までは浮つき、全く思うように行かなかった。上宮祭明けから腰を落ち着けて学習へ意識を向け始めたが、問題行動も断続して起き始め、やはり「元々勉強し慣れていない」「楽な方へすぐに流れてしまう」生徒であることを甘く見てはならないと痛感した。ここからは、１１月の１ヶ月を「修学旅行を全員で気持ちよく迎える月間」と位置づけ、奮起を促そうと考えている。さらに、修学旅行終了後は、すぐに「３年生０学期」の意識付けを発動し、３学期は、受験教科を中心に、演習問題のトレーニングなどを通して、徐々に受験モードを全体に浸透させていきたいと考えている。３年生のスタートで「受験生」になれていない時点で、勝負は見えている。先生方にも協力してもらいつつ、学校の雰囲気をリードして行きたい。特進コースは、思い通りに展開している。徐々に負荷を増やしつつ、できるだけ多くが有名国公立を受験できる状態に持って行きたい。今後が非常に楽しみである。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高３学年	**責任者名**	

平成２９年度の重点目標

①生徒･保護者･教員の意思疎通

②自立心を養う

③学力の向上

④希望進路実現に向けてのサポート

①担任会や回覧等で連絡を密にし、クラスの状況の共有を心掛けた。
学年会は開けていない。

②個々の目標が明確になってきており、学校で勉強することを勧めたところ、７月頃からは、放課後や休日にも教室・自習教室で自主的に勉強する生徒が多くなった。

③入試で使わない教科も手を抜くことのないように指導した。
進学希望大学の過去問は一生懸命に解いているが、模試に対しての意欲が少なく、偏差値に結びついていない。

④毎学期二者面談を行い、個々に応じた受験対策や小論文指導・面接練習を実施した。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

☆総合進学コース

指定校・高大連携入試、ＡＯ入試が落ち着きだした時期である。これから受験をする生徒に対して、次の公募制推薦入試・一般入試に向けて実力をつけさせ合格に導く。

☆特進コース

総合進学コースで大学合格者が出る中、焦って私学に流れるのではなく、センター試験に向け最後まで現役・国公立大学合格の目標を持たせ努力させる。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人 権 教 育	**責任者名**	

①「いじめ」の問題：「いじめ」の問題を高校 1 年生が書いた人権作文を読んで原因を考えさせた。人権作文は理解しやすかった。しかし，G.W. オルポートの『偏見の心理』によると，否定的偏見が弱い段階から強い段階へと移行していく段階での具体例を挙げて，①「誹謗・中傷」　②「回避」　③「隔絶」　④「身体的行動（暴力・半暴力)」　⑤「絶滅」の 5 段階のうち，「いじめ」が①「誹謗・中傷」から始まり，②「回避」や③「隔絶」の段階と似ていることが生徒には，理解するのは難しかったようだ。

②　『日朝の歴史関係①古代から近世の歴史』：渡来人は縄文時代に稲作技術を伝え，また飛鳥時代にも文化面等で多大の影響を与えたのは理解できたようですが，その古代の渡来人とどう結びついている点まで考えさせられなかったのは反省すべき点である。などを引用して，渡来人の貴族の 3 割はであると『新撰姓氏禄』に記述されていると資料をもって証明し，日本はミックス・ルーツであることが分かれば，いつ朝鮮人に対して差別や偏見を抱くようになったかを考える機会になるだろう。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①「在日外国人問題，被差別部落問題，いじめ問題など，それらが個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく，同じ根源を持っている点を押さえる必要がある」と年当初の指導計画を立てたが，まだまだそれにふさわしい教材に至っていない点ので，まだまだ研究しなければならない。(高校)

② 育てる人権教育の実践　(中学校)

・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用して、安心して学校生活を送れる集団づくりを目指した。

「他人ごと」でなく「自分こと」であると考えるように少しずつなってきたようです。いわゆる「人権教育における内的葛藤」についてすこしずつ考えるようになってきたようです。

③ 校内研修の実施：前年度同様，文公輝さんを講師として来てもらって「属性」や「マイナー・アグレッシブ」について 3 学期に講演してもらう予定です。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	責任者名	

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

定期健康診断実施を「総合検診」として全項目を全学年 1 日型で一斉に実施することで、効率化を図ることができ、定着化してきた。また、昨年度より義務化された運動器検診や色覚の検査についても保健調査票等の配布・回収等をスムーズに実施して、昨年度の結果も併せてスクリーニングに役立てられた。また、臨時の健康診断においても、男女プライバシーに配慮して学校教育活動の一環として教職員の共通理解、組織的連携を図ることができた。

配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的な対応ならびに支援を行うことができた。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

心身の発達に特性のある生徒に対しては、発育・発達に応じた健康課題に向けた個別の保健指導を行い、また、集団的保健教育では性の教育において全年度のアンケート結果を分析し、保健所の指導のもとに保健体育科と連携して、昨年度よりも理解度のポイントは下がったが、中学校でも知り得なかった内容で感動を与えた取り組み内容で成果があった。また、宿泊的行事における健康管理や上宮祭では自主的な活動が昨年に比べて充実していた。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

男女の発達の特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添うことに留意し、面談終了後には担任、保護者、学年主任等と組織的な連携、特に教育相談（ＳＣ）とは強く連携を深めている。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒保健委員活動では、検診準備及び介助に関して活動できた。また、今年度より、上宮祭において、保健所の指導の下に、生徒保健委員会活動を生徒主体で行い、食中毒やインフルエンザ予防の保健啓発活動を推進することができた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

インフルエンザなどの流行の兆しやマダニ、ヒアリ、毒ヘビなど新たな感染、その予防と発生時の迅速な対応、マニュアルの作成、予防啓発活動を積極的に行う必要がある。

また、救急処置対応だけでなく、けがの予防に努めるために、スポーツ振興センター請求の実態の数値化や予防啓発教材を活用して、けがの予防情報の発信を進めていきたい。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

睡眠、栄養、運動などの基本的生活習慣を自律的に改善、健康増進が将来において図れるように、特に保健室頻回来室者や欠席過多の生徒に対して予防教育に努める。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、教育相談（ＳＣ）とカウンセリング後の状況についても、必要に応じて現状報告を行い、連携を深めていく必要がある。また、「生活アンケート」等の内容もあわせて心の問題に注意を払い、組織的連携を図る。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒が、主体的に活動できる保健委員会活動の企画（心身の健康に関する情報発信など）を年度末に向けても引き続き援助していきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	図書室	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①概ね開館できていると思います。

②生徒、教員の希望図書は可能な限り購入、登録しています。

③生徒は積極的に図書室を利用していると思います。

毎月１回、図書だよりを発行しています。

④男子、女子生徒共に課題学習に図書室を利用しています。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①図書室の椅子が複数故障しています。学校に協力を要請して対応します。

②各教科の先生方にも意見をいただき、学習にも活用できる図書を増やしていきたいです。

③課題学習の利用のみでなく、本来の読書を推進できるようにしたいです。

図書だよりなどを通じて、生徒に情報を発信していきます。

④高校生の受験関係の図書について、可能な限り対応したいです。

※入試論文対策、指定校よりの論作文に関する図書など。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広　報	**責任者名**	

①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。

・検討できていません。

②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。

・昨年度に比べてアップの回数は増えているが、目標には達していない。

③新しいコンセプトの学校案内の作成。

・業者選定コンペティションをおこなう予定である。

④卒業生に対する広報活動の検討。

・卒業生の社会での活躍を在校生に紹介できるコーナーの設置を検討している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・年末年始に向けホームページの閲覧回数が増えるので、内容を充実させていきたい。

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	業務推進室	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

① ・校務システムの導入の検討は進んでいない。

② ・個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については，年度当初に新任研で行った。

・個人データの管理の徹底も新任研でのみ実施した。

③ ・イントラネットの整備は現在検討中。

・教員へのノートパソコンの貸し出しは適宜，実施している。

・ファイルサーバ内のフォルダの管理については，継続的に実施している。

・データのバックアップ体制の充実は，実施できている。

④ ・分掌内での情報の共有化の徹底は，実施できている。

・効率的な業務の分担の実現は，部分的ではあるが実施できている。

・作業マニュアルの改訂は，あまり進んでいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

① ・校務システムの導入は，継続して検討する。

② ・個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については，学期末に実施を検討中。

・個人データの管理の徹底も学期末に実施を検討中。

③ ・イントラネットの整備については，継続して検討する。

・教員へのノートパソコンの貸し出しについては，今後台数を増やす予定。

・データのバックアップ体制の充実は，継続して実施する。

④ ・分掌内での情報の共有化の徹底は，今後も継続する。

・効率的な業務の分担の実現は，段階的に増やしていく。

・作業マニュアルの充実は，今後も更新する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

・平成 28 年度の学校評価及び学校関係者評価に関しては、予定通り実施できた。

・授業アンケートに関しては、11 月 4 日、10 日実施に向けて、準備を進めている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・今後、第三者評価をどのように考えていくのか、検討が必要である・

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 29 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①適切な事務処理水準の維持

５月末より１名の補充を受けて業務にあたっている。新年度が半分経過し、皆がようやく慣れて仕事が落ち着いてきている。慣れたことで、油断せず、丁寧な仕事運びはできていると思われるので、さらにブラッシュアップを心がけたい。

②校内・教育環境のさらなる整備

中学普通教室を中心に ICT 環境が整い始めている。サポート体制を充実させたい。

③消耗品等、管理経費の削減

倉庫の整理が道半ばである。時間を見つけ、継続的に取り組みたい。重複した品物を統一し、無駄な在庫は徐々に減っている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

しっかりと現状を把握し、年度当初に立てた計画を遂行できるように気を付けたい。そのためには、職員間のコミュニケーションを密にとり、仕事内容の振り返りが大切であると考えている。

平成 29 年度授業アンケート　分析

１．実施時期

高等学校　　11 月 10 日

中 学 校　　11 月　4 日

２．対象学年

全学年

３．グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の 4 段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

質問別肯定的評価グラフ

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」は生徒の自己評価になります。

４．分析

平成 29 年度は 11 月に実施した。約 6 ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように今後も進めて行く。

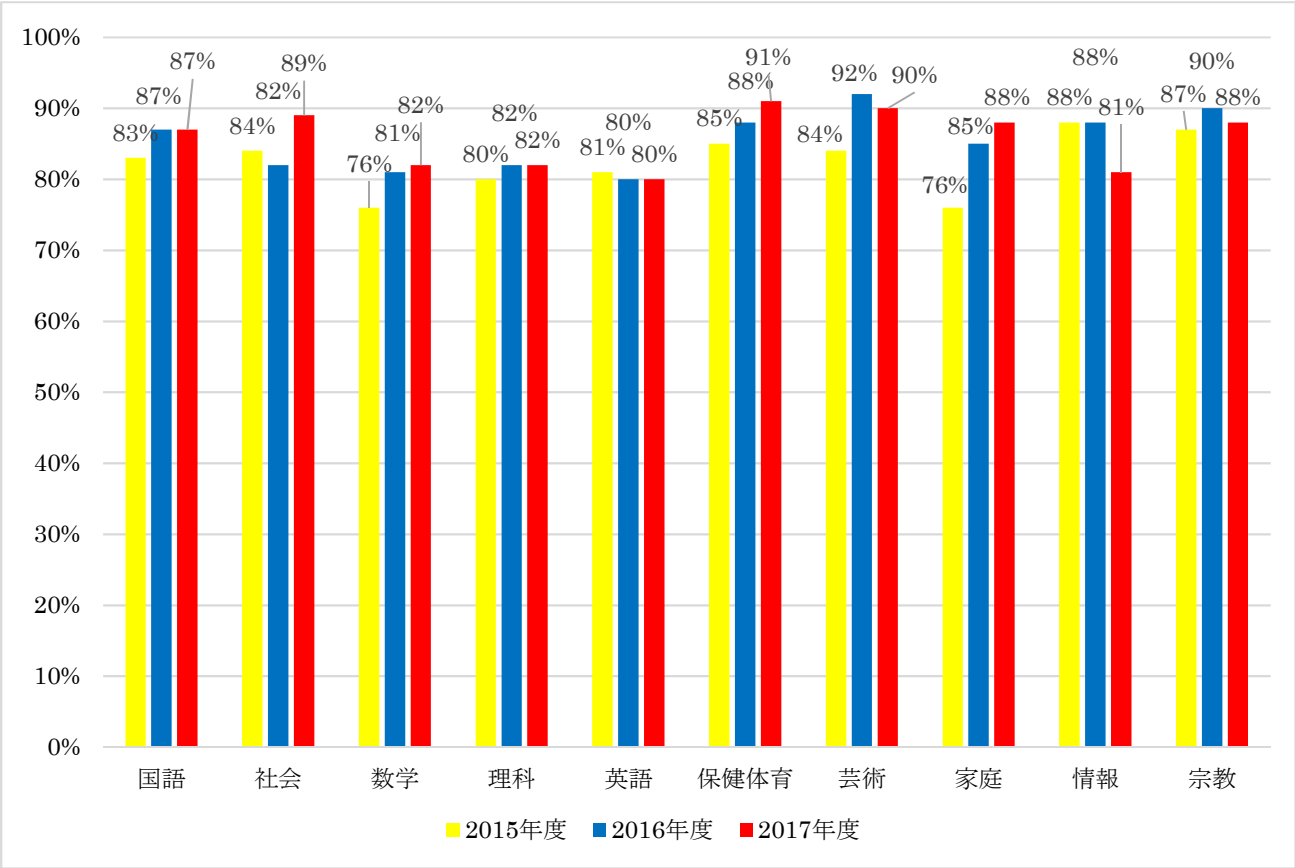
【高等学校】

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも８０％以上になることを目標としている。過去３年のグラフを比較すると、今年度はほぼ同じ評価かやや高い評価を受けている。特に社会、保健体育の評価が前年度と比べると、高い評価になっている。今後とも、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。また、質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。数値的にはやや低くなっているが、昨年度よりは改善し、家庭学習の習慣が定着していると考えられる。また、「授業展開」の評価は他の項目に比べると評価の数値が低いが、この項目は他の項目より数値的に低く出る傾向にある。また、自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるので４０％以上が目安になる。今後、各教科ともどのように改善をすればより高い評価になるか検討を重ねていきたい。

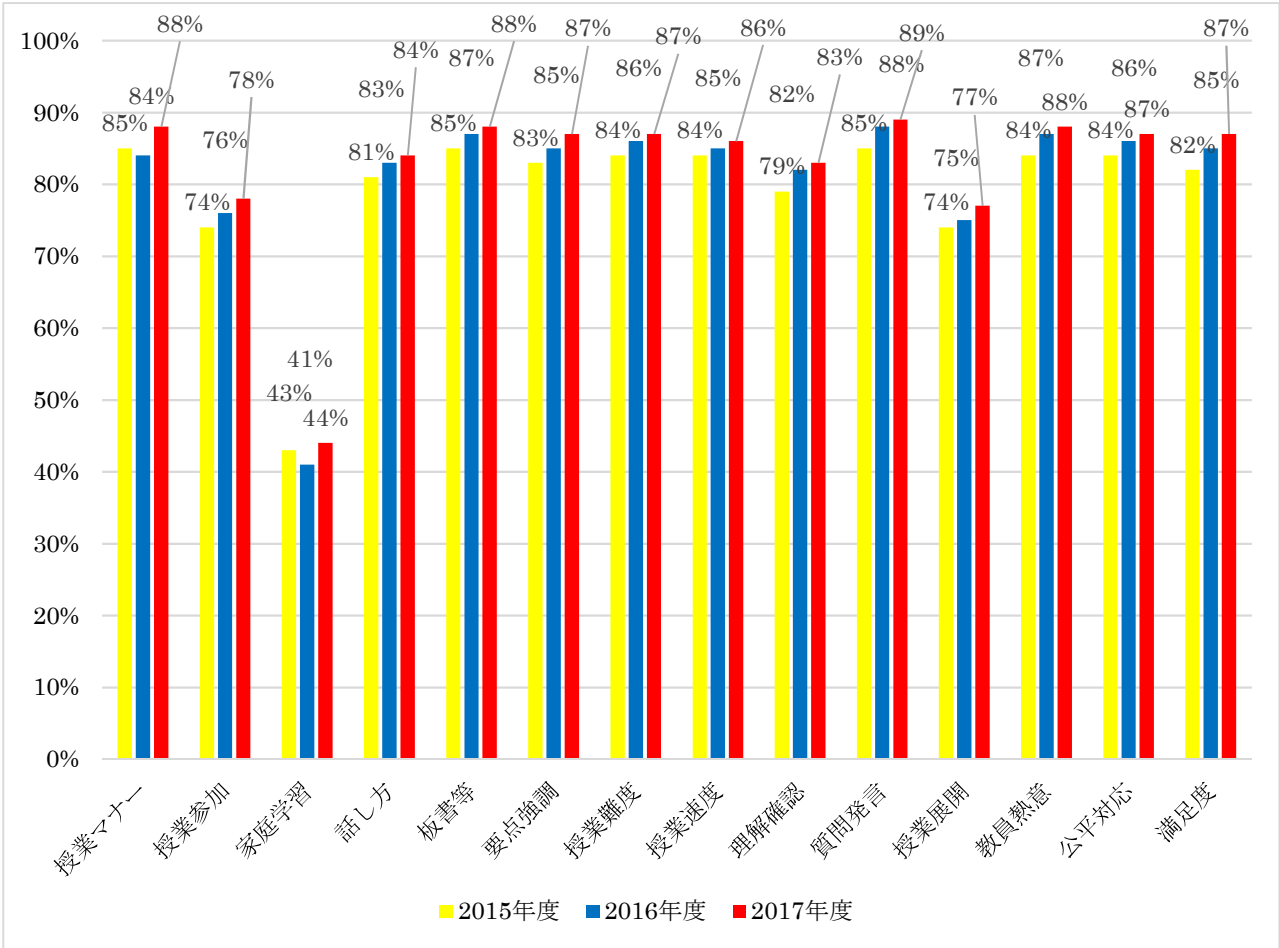
【中学校】

教科別肯定的評価グラフにおいて、高い評価であると考えられる。特に、数学の評価が高くなった。ただ、社会においては数値の落ち込みがあった。高等学校に比べると人数が少ないので、数値の変動に大きく左右されるが、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。質問別肯定的評価グラフにおいて、「家庭学習」の自己評価はやや低下してしまった。中学校から学習習慣の定着をもっと図る必要があると考えられので、いかに低学年から家庭学習の習慣を身につけさせていくか、継続的に検討をしていきたい。

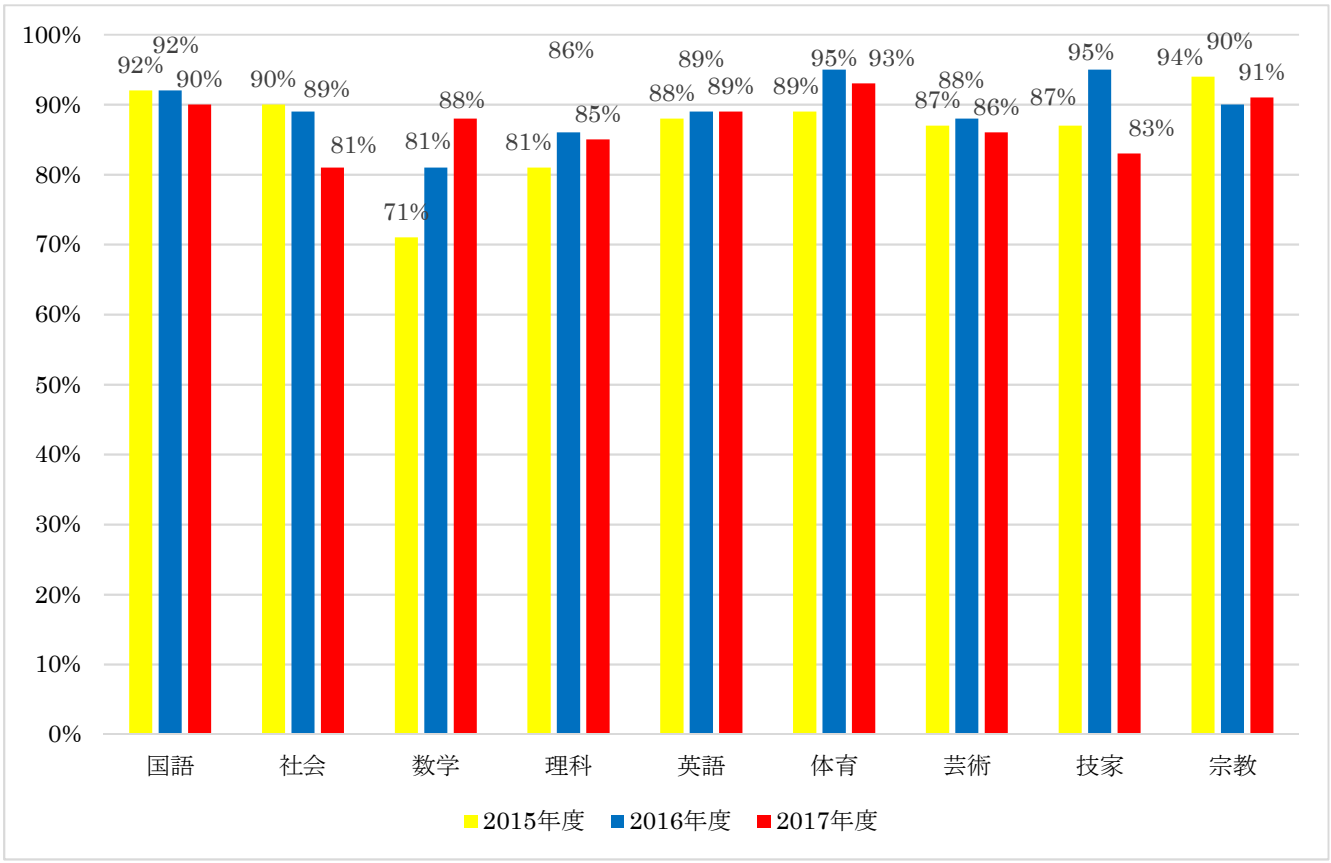
平成 29 年度　上宮太子高等学校　授業アンケート



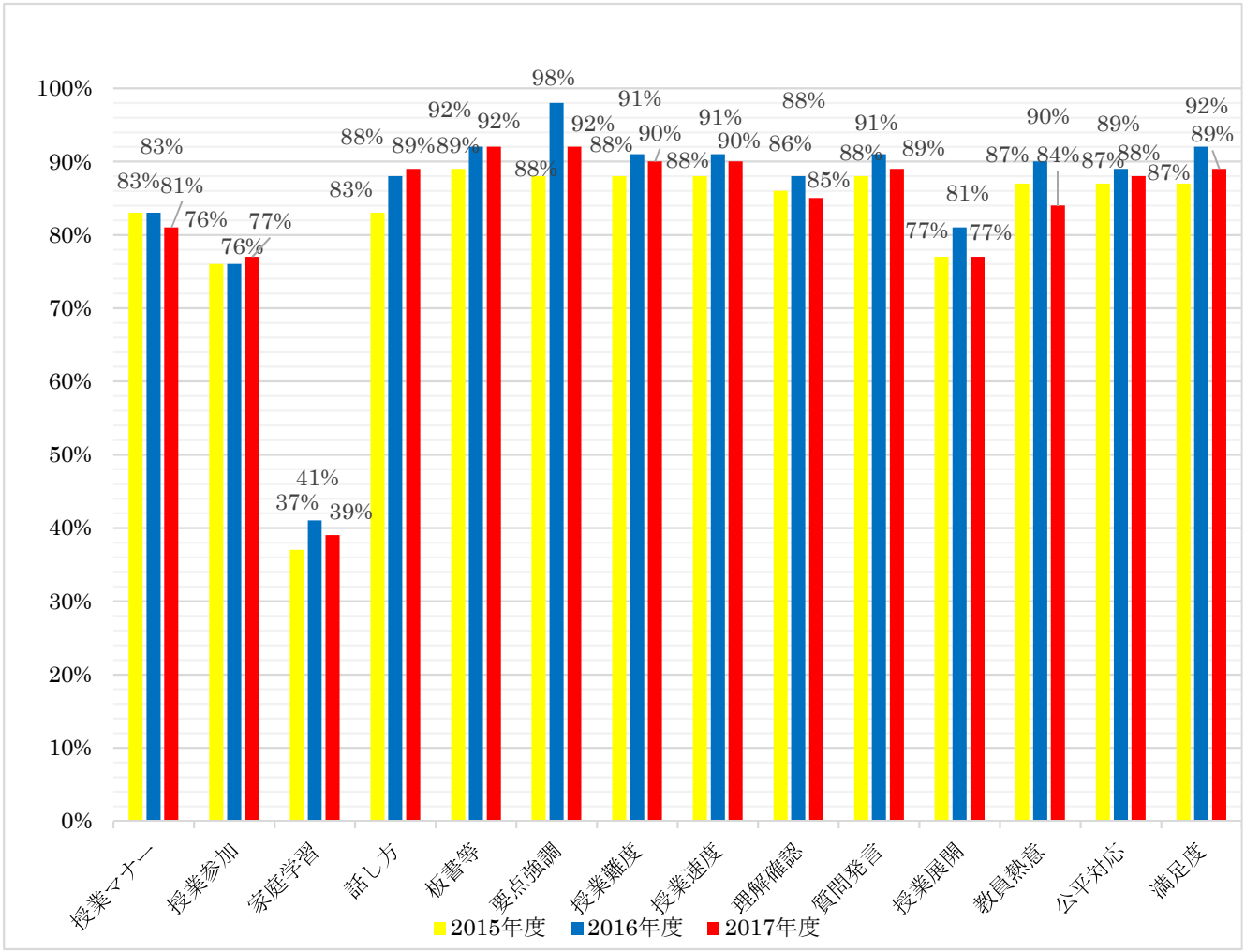
質問別肯定的評価



平成 29 年度　上宮太子中学校　授業アンケート



質問別肯定的評価



平成 29 年度　学校評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校

１．平成 29 年度年間目標

平成 29 年度の年間目標として、浄土宗の教えを基盤としたうえで、学力を向上させ、特進コースからの国公立大学合格者数および総合進学コースからの大学合格者数の数値目標を設定し、英語検定試験の合格者数の更なる増加、共学教育の推進、各部署がそれぞれ連携を取りながら職務に取り組むこと､授業力の向上に向けた研究を各教科が取り組むことを掲げた。

２．各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

・運営システムの整備
・行事の着実な実施と改善
・教務内規の精査
・各部署との連携強化
・各コースの指針に即したカリキュラム改善の検討
・シラバスの作成
・上宮学園中学校との連携事項の検討

【評価】

・教務内各係の業務内容を明確にすることができた。そしてそのことにより、教務部内での共通認識も今一度再確認することとなり、よりスムーズな業務運営となった。
ただ、教務部外の各部署との連携強化については十分に進めることができなかった。
・学校の目標に基づいてカリキュラムの改善を考えたが、まだまだ改善途中であり完成には至っていない。今後の学校目標を見据えながら継続して作成していく予定である。
・ 昨年度にシラバス推進委員会で審議を重ね､中学校高等学校ともに一応の完成を見たが､それを基にした審議を進めることはできなかった。
・教務内規は継続して検討を重ねている。そして一部を現状に合わせた内容に変更し、職員間に周知することができた。
・上宮学園中学校との校外学習等の連携行事や内部進学規定の検討を進めることができた。

②進路指導関係

【重点目標】

・希望進路の実現のための学力の向上（読書指導・家庭学習の推進、模試結果の活用）
・生産性の高い進路指導体制の構築
・大学入試制度改革・アクティブラーニングの研究と啓蒙

【評価】

・読書習慣を身につけた生徒増に繋げることができていない。
・スタディサプリ導入により、家庭学習時間の増加は見込めたが、取り組み方においてはまだまだ改善、工夫の余地がある。
・模試結果およびその分析については、担任及び教科担当者から生徒へと繋げられるようにはできたが、分析や利用方法では、もう少し、担任会、教科会で時間をかけて検討する必要がある。
・生産性の高い進路指導体制の構築面で、業務分担面においては実現したものの、まだまだ考えなければならないことも多く、不十分な結果といえる。具体的な業務の見直し等を含んだマニュアル作成が急務であるといえる。
・大学入試制度改革・アクティブラーニングの研究では、必要最低限のことは部内では共有できたが、学年や教科へはなお一層の周知が必要である。

③生徒指導関係

【重点目標】

・悩みを持つ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする
・不登校、配慮を要する生徒への取り組み強化の継続
・生徒の道徳意識、規範意識の向上
・生徒会、委員会活動の活性化

【評価】

・スクールカウンセラーが交代したが、従来通りのスムーズな対応ができた。
・全教員による一律指導ができている。各学年との連携が強化できている。
・学校行事は生徒に主体性をもって取り組ませることができた。ただ、事前準備や生徒同士の協力面では、まだまだ受け身で動いていた生徒も多く、さらなるアプローチが必要である。

④入試対策関係

【重点目標】

・高校入試の受験者数の安定化
・上宮学園中学校の広報活動
・情報の収集・共有化

【評価】

・公立中学校や塾への訪問を増やし、イベントの告知等を増やすことで、更なる少子化の現状の中、何とか受験者数の安定に取り組んだ。しかし、若干ではあるが受験者数が減

少した。入試ラインを上げてきているため、多少の減少は予想できた。ただしそのような環境下ではあったが減少幅は少なかったといえる。

・上宮学園中学校の広報活動では、出来る限り上宮中学校（天王寺）との連携を取ったが、まだまだできることがあると考えている。引き続き連携を強化して行きたい。

・学校全体への情報の共有化は満足のいくものではなかった。発信共有する仕組みを考える必要がある。

⑤学年

【重点目標】

・各学年に応じた基本的生活習慣及び学力定着の確立

・学年担当者間、保護者との連携

・挨拶の励行

・自立、責任感を持たせる取り組み

【評価】

・各学年とも年度当初の目的はある程度達成できた。基本的生活習慣の確立については、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。

・学年内での情報共有については、昨年度よりは進展したと思う。さらなる方法を今後検討していく予定である。

・将来を見据えた大学進学に関しては、各学年とも、昨年度以上に意識を持って取り組んだ。ただ、まだまだ生徒が実際に意識する時期が遅く、もっと早くに意識ができる工夫の必要性がある。

・中学においては、自立に重点を置いた。保護者との連携によりその成果が出ている。

・英語検定の取得級の向上を各学年とも目指している。生徒の意識が定着してきている。

・今後とも各学年の達成目標を意識した指導の確立を目指していきたい。

⑥教科

【重点目標】

・学力、技術の向上

・教科会を通じての教科内研修の充実

・授業アンケートを参考にした授業改善および授業力の向上

・大学入試問題等の研究推進及び受験対策への活用

【評価】

・複数の教科では、教科会で学力向上についての意見交換を行ったが、まだまだ時間的に突き詰めることができず、具体的な部分までは進めなかった。

・昨年度に比べ、各教科の授業見学は頻繁には実施できなかった。また、外部研究会への参加を通じての授業法向上の研究もあまり実施できなかった。

・各教科とも、授業アンケートの結果を踏まえ、教科会でより良い授業をするための改善

点を検討している。
・英語科では、英検受験者の増加とともに、英検講習を学年の枠を超えて実施、合格者の向上に繋がった。
・大学の入試問題の分析を各教科で具体的に組織的に実施した。
・実技教科においては、その教科の特性を鑑み、体力の向上、技術の向上、協調性、より素晴らしい感性の育成等の目標をほぼ達成できたと考えている。

⑦その他

【重点目標】

・いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実戦
・読書活動の推進
・データ処理システムの考察
・校内整備
・生徒会活動の充実
・学校保健組織活用の円滑な推進

【評価】

・生徒会活動において、風紀委員や整美委員らが中心になって行っている挨拶活動や清掃活動は、順調に運用できている。
・保健室と連携して保健委員の活動も、活発に行えた。
・体育大会や上宮祭において、生徒会を中心とした進行は昨年度より進んだものとなった。

３．授業アンケート

今年度は２学期に１回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

平成29年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子中学校・高等学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

１．平成29年度自己評価結果について

平成29年度の学校評価の取り組みおよび自己評価の結果についての説明を受ける前に、学校評価の趣旨と学校関係者評価の目的についての説明があった。

まず、平成29年度の年間目標として「学校祖・法然上人のお教えを基盤としたうえで、特進コースからの国公立大学合格者数および総合進学コースからの大学合格者数の数値目標、英語検定試験の合格者数の増加、理系コース選択者数の増加、共学教育の推進、連携をとりながら各部署がそれぞれの職務に取り組むこと、授業力の向上に向けた研究を各教科が取り組むこと」とし、そのもとで各部署が年間目標を作成し、それに向けて実施された内容と課題の説明があった。その実施した内容に対しての“遂行度”“達成度”の観点を踏まえた評価基準による分析をもとにした自己評価結果が提示された。10月の中間評価を経て、年度末に最終的な評価をされている。結果はあくまでも自己評価であるので、部署によっては若干の差異が生じている。

「授業アンケート」については、例年11月に全生徒を対象に実施されていることが説明され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。教科によっては、若干評価に偏りが見受けられるが、今後、教科で検討をするようである。

２．平成29年度自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間の連携も昨年に続き更に改善しようとしているようだ。ただ課題を進めていくうちに、継続的に改善すべき課題、また新たな課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をして、より良い学校にしてもらいたい。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や生徒の満足度の項目が高いことについて評価できる。今後も、もっと学びたいと思うような授業の評価を高めてもらいたい。教科間で若干の評価の偏りがあるようなので、分析を踏まえて、更なる取り組みに期待したい。以前から、熱意のある先生が非常に多いので、授業アンケートの結果を参考にしながら、今まで以上の取り組みを期待している。

進路指導面では、一人ひとりの生徒の希望進路の実現のための学力の向上を、一層推進できる進路指導体制を構築することを重点目標とし、その上で、教材の活用法から模試の活用法、そして家庭学習の在り方に至るまでをまとめていこうとされていることは評価に値する。

ただ、今年度の評価については、まだ出発したばかりで十分に満足できる結果には到達していないようなので、今後も引き続き、この整備を進めていってもらいたい。また、教員間の大学入試制度改革やアクティブラーニングに関する教員研修参加を推奨されていることは、今後のあり方として好ましいことと言える。更なる教員間の周知徹底に取り組んでいかれるよう望むところである。

生徒指導面では、全教員による一律指導を目指した情報共有の取り組みは評価できる。
そして、配慮を要する生徒への取り組みを強化され、スクールカウンセラーから各学年担当者に至るまで連携強化ができたということは評価できるものである。また、生徒参加による生徒会活動を活発に利用され、生徒自らが主体的に行動する意識を学校全体で共有されていることも大変好ましい。ただ、一部の生徒会活動においては、教員が中心となって動いている面もあるようなので、更なる生徒主体の生徒活動となっていくように取り組まれたい。

各学年、各教科での指導面でも、前回同様に情報共有に重点が置かれたようで、教員間の意識の統一を強化されたことは評価に値する。こうしたあり方は、各分野それぞれでのレベルの底上げにつながり、今後に期待できるものである。また、中学では特に自主性の醸成に重点を置き、保護者との連携を強化することで成果が出ていることは好ましいと言える。
そして、ベテラン教員と新任教員との情報共有を今後も続けることで、一律の授業効果が期待できる環境を整えられたい。

以上の他に、授業アンケートの設問内容や分析の在り方について、生徒が一層、自主的に自学自習ができる環境整備について、コースの特性に応じた教室環境の配置について、大学受験の際に各コースの生徒が受験する入試形態の在り方について、そして、自然災害時の緊急連絡の整備についての意見が出され、今後の検討課題とした。

この他に、学校評価アンケートの数値結果だけで計れない太子教育の良さがあるのではないかという意見も出され、数値の向上努力と併せて、太子教育の伝統を継続し、生涯教育を見越した温かみと手づくり感のある「人づくり」、「人間力の向上」をめざす教育を守り続けて欲しいとの要望も出た。